

幼児の教育

家庭・保育所・幼稚園

第五十三卷 第十二号

日本国石鉄道特別取扱認雜誌第六八三号



日本幼稚園協会

12

トツパン独特の人形による童話劇!!

総天然色 人形絵本



- (6) (5) (4) (3) (2) (1)
- あかずきん ちやん
 じゃつくとまめのき
 びーたーとおおがみ
 三びきのくま
 三びきのこぶた
 ぷーぼんせんせい
 あふりかたんけん

週刊朝日評より——これは普通の絵本のさし絵と違い、一つ一つが厚みと奥行きを持って立体的に視覚に訴えてくる……おそらく幼児の絵本として、とても優れたものであり、試みとしてはユニークなものだということができよう。

厚くて丈夫な
貼合せ絵本

各 100円

トツパンの絵本はフレール館または代理店にてお取次ぎいたしております。

トツパン 東京日本橋茅場町1の20・振替東京41647

近 刊 御 案 内



子 供 讚 歌

倉橋惣三著 B6 260頁 予価 260円

倉橋先生の永年に亘る美しい児童観。両親は勿論教育者必読の書。

インドのお話集 あわてうさぎ

内山憲尚著 A5 176頁定価 220円 発売中

仏典を基に書かれた十七の童話一面白くてためになる教材用童話集

幼児劇集 はるのひよこ

村上幸雄編 A5 172頁 予価 230円

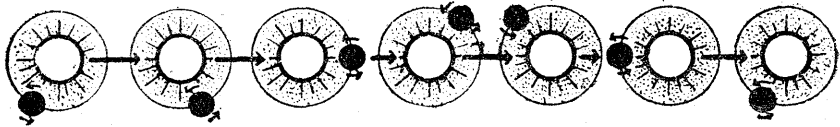
斎田喬氏等七氏執筆の創意にみちた画期的な幼児劇集。諸家絶讃。



株式
会社

フレール館

東京都千代田区神田小川町2ノ5 電話東京(29)8222~8225, 6388振替東京19640



幼児の教育 目次 第五十三卷 第十二号

表紙……………猪熊弦一郎

判断について二つ……………多田 鉄雄…2

保育 冬の北海道……………鷺山 さき…7
冬の北陸……………まつむら・いさむ…9

冬の北九州……………笠井 久子…12

冬の南九州……………守田 キヨカ…14

米国の都市の子供のあそび……………米国大使館文化交流局…17

こどもたちはどんなあそびをしているか……………室谷 幸吉…19

子供にとって幼稚園はどんなところでしょう……………水原 泰介…33

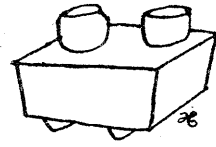
全国私立幼稚園教育研究大会を終えて……………青柳 義智代…37

★幼児へのクリスマス伝説民話★……………上沢 謙二…41

保育の本質から見て細分け保育か、合同制保育か……………鈴木 豊三…45

幼児の教育第五十三卷総目録……………48

編 集 主 幹	倉 橋 惣 三	及 川 ふ み	齋 藤 文 雄
協 力 委 員	牛 島 義 友	波 多 野 完 治	山 下 俊 郎
	多 田 鉄 雄		(五十音順)
発 行 日 本 幼 稚 園 協 會			



判断について二つ

多田鉄雄

その一つ。先達でラジオを何気なく聞いていると「馬車で園児を送り迎える幼稚園訪問」が聞えて来た。例のあの幼稚園のことだなど思いながら聴いていると、仲々面白い。馬車で送り迎えることによって、通園途中の事故を防止し、幼児を安全にしかも楽しく通園させ、動物に対する関心と愛情を深めて行く教育的効果をあげようとする園長の考えはよくわかる。次に附添って来ている親たちを聴くと、「馬車に毎日乗れる幼稚園にあがるのだと子供がせがむので、この幼稚園に入れることにした」「子供は毎日幼稚園へ行くのが楽しみで早くから家の前に立って馬車の来るのを待っている」などで、今度は馭者の言葉で「馬は実に伶俐です。朝迎いに出て子

供の姿を見ると、すぐ幼稚園の子を間違ひなく見分け自分で脚をとめて子供の乗るのを待つ」とあり、女の先生の云うには「一度では物足りなくて、一旦幼稚園へ来てからも、又二度も三度も乗りつづける子供もいるのです。一応は一度だけのことになっていますがあまりのりたがるので」とのことであった。父兄の言葉の中にこの幼稚園は馬車が出来てからとても園児が増えたと言うのがあったが、それもうなづける気がした。

私がこの放送を持出して来たのは何もここでこの馬車の功罪を論じようとするためではない。園長、親達、馭者、先生の馬車に対する考え方がそれぞれがっていることを問題にしたいからだけのこ

とである。たしかにアナウンサーの質問が夫々の人々に対して違っていたのであるから、一応は答が色々だったのはそのためかとも思えるが、しかしその答え方を始めから終りまでよく聴いていると、どうしても夫々考え方がちがうと云うことを認めないわけにはいかないのである。もしこのように考え方がちがうとすれば馬車の価値に対する判断もちがって来る。又、同じ程度に高い価値を認めている場合でもその基盤がちがうわけである。例えばこの馬車が園長の意図しているように教育的意義を持つべきものならば、その先生が「一度だけが多すぎますよ」と云いきかせますが、あまり、のりたがるものですか」と若干の子供に、いわば規則を違反させたまゝ見逃してしまうことは、毎日のことであり唯一度の例外ではないだけに一寸心配になって来て、この先生は子供が馬車から出て幼稚園の中へ入ってしまったから教育を初めるのか知らと思われても仕方ないとも云える。これは極言しすぎているかも知れないが、この場面では少くとも園長ほどには、この馬車を教育上重視していないとは云うことが出来るであろう。馭者は馬車と云えは何よりも誇る気持で一杯であった。又、親達の中にはこの放送で発言した人々のほかに色々な考えの人が沢山居たことと想像される。実は発言した人は少数であったから、大部分の親達は園長と同じように、この馬車が色々な点で教育的効果をあげてくれると期待しているのかも知れ

ない。ともかくもこの馬車に関して色々な人が色々な判断していることはまちがいないであろう。そして、どれもこれも一応の理由がある。たゞ、例えばこれを教育的見地から考えて行く場合と、そうでない場合とでは考え方が大きく二分されて行き、少くとも教育的見地に立てば、その間に若干の見解の相異があるにしても究極的には考え方の基盤又は方向に必ず共通点を見出すことが出来るであろう。私は物の考え方が立場の相違によって非常にちがって来ると云うこと、したがってその判断もちがって来ると云うことを先ず云いたいのである。即ち「良い」とか「良くない」とか云われているものでも、実はそのように判断している立場を同時に理解するのでなければ、正しくその判断をうけ入れることにはならないのである。次にこの馬車を世論とか評判とか云うものと結びつけて考えて見よう。輿論と云うものが初めはかたよって形成されることがあっても次第に修正されて最後には良識的に、且つ公正に結実して行くものであると云うことは、デモクラシーを支える原理の一つであるが、その過程では、ある場合には正当な判断に達していない多数の音が優勢によって輿論となったり、ある場合には大きな声が——宣伝と云ってもよからうが——輿論をリードしたりすることのあるのは否定出来ないことであろう。そうであるとすれば、この馬車が評判になった場合、あるいは馬車で送り迎えするのは安全な、いい幼稚園

であるとかうことが世論になった場合、それがそのまゝ決定的な輿論にまで伸びて行くものであるか、それともいつかは違った考え方が支配的になって、それが究極の輿論を形成するかは未だわからないままであると云わなければならぬ。このような場合に私達は如何に処すべきであろうか。それは日和見主義ではなくて、十分に事實相を洞察して行くべきであり、いたずらに先入観に支配されたり、偏見にこだわったりするべきではなく、自らに正当な判断が下せるまでは、即かず離れず、柔軟な且つ慎重な態度をとることこそ正しい在り方であるだろう。国民性の相違としてイギリス人は考えながら歩く、フランス人は考えた後で走り出す、スペイン人は走ってしまった後で考えるときは、よく云われていることであるが、この点では少くとも考えてから歩か、さも無くばせめて考えながら歩くものでありたいと思う。こんなことに判り切ったことと云われるかも知れない。たしかにこの馬車の例のような場合にはあわてて誤まった判断を下すようなことはないであろう。しかしこれが「アメリカの新しい理念」「ドイツの新しい教育」だとか、「某先生の主張、意見」だとか何等かの權威らしい衣を着せられた、その上一見したところなるほどと思われるような代物で出現した場合には、どうも私達はそれにとびつのがせつかちでありすぎるようです。に終戦後の教育界の色々の事象を省みると、このことを否定出来な

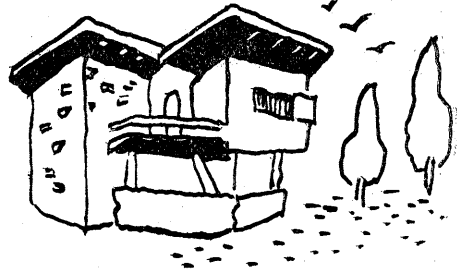
いような気がする。終戦直後の空白状態の影響もようやく収めて来ているように見える現在、私達はそうそうもつと足を地につけて物を考え、正しい判断のもとで行動して行きたいと思われる。

その二つ。もともと日本人は数字にうといと云われて来たが、終戦後は統計数字を重視するアメリカの影響もあって近頃は統計数字が盛んに用いられている。しかしよく吟味して見ると、例えば統計の常識の一つとも云える「統計のうそ——統計を見る人及び作る人の社会分析の不明確から、又は数字の内容の内容分析の不明確から起るあやまり——」が気付かれずに読まれてしまうなどのことがしばしばあるように思われる。丁度先達の本誌に載った文部省の玉越氏の「教育白書にあらわれた幼稚園の現状」は数字を主に取扱っている。これを例にして述べて見よう。同氏は教育行政の専門家であるから、教育社会の事情・数字の奥にあるものについては十分理解されているのであるが、紙数の関係から説明がはぶかれているところもあるので、こゝで取上げて見るわけである。読者は先ずこの叙述が同氏によって直接に書き下されたものでなく、「わが国教育の現状」によるものであるとの冒頭のはしがきにも一応留意する要があるし、ここに用いられている統計資料が文部省指定統計と地方教育費調むと云う二つの異なった調む方法による数字であることに注

意しなければならぬ。前者が世間一般に行われている項目別をとっているのに対し、後者は教育財政の特別の観点から極めて異色のある項目別を立てているのである。又後者は公立のみについて調べているのであって、例えば第三表、第四表は第六表と共に、公立のみについての表なのである。之は本文を見落すことなく読んで行けば間違いないのであるが、うっかり表のみを見ると、部分を全体と見誤まることになる。次に第四表幼児一人当り消費的経費（教授費——人件費とも——維持費、修繕費、補足活動費——用人給与、給食費など、——所定支払金——保険金——共済組合費、退職金など）で鳥取、秋田、山梨はその経費が全国の最高乃至最低を示しているのであるが、これはそれらの県が公立一園しか存在していないのであるから——同氏はその説明を省略しているが——偶然の数字と云う他ないのである。又経費に大きな出入りがあるのは同氏の叙述にあるように所在地の地方差に由来するのであるが、その大半の比重を占めているのは教員給であるから、経費が多い府県は先づ高給の教員が比較的多いことと、維持費その他に多くの費用がかかることを意味しており、又この表から直ぐに見ることは出来ないが一園当り乃至一教員当り幼児数がこの経費の高低をも支配しているわけである。

次に財政の公私別を見ると私立幼稚園は保護者が七割五分、設置

者が二割五分となっている。私立幼稚園の経営者はもとより営利でこれを営んでいるのではないが、幼稚園創設に当って土地、建物を自らの経費で提供し、その後増設その他の臨時経費を負担する他は収入で賄って行くと考えるのが普通で、毎年になつて全経費の二割五分を自ら支出するとすれば通常又は通常以上の規模の幼稚園では一体どこからその費用を捻出して来るであらうか——宗教法入立のような特殊の例外を除いて——。それ故、この二割五分は主として臨時費（土地建物、増設の費用——それが年賦償還の場合も含めて——）と見るべきであつて、そのことは第二表に私立において建築費、設備費の比率が国公立より高いことから推定できるし、更にこの年度又はその直前までの私立幼稚園の新設数を見合せてもうなづけることである。それ故にこの私立幼稚園の設置者負担額、その比率は特殊の事情によるもので、これを何の説明もなくその年度の数字として提示するならば、その限りにおいてはこの文部省指定統計の数字は「統計のうそ」をおしていることになるわけである。このように数字は魔物とも云われるようにそれによつて判断する場合には十分の注意が必要であると考えられる。



冬の

あそびと

保育

鷺山 さき
まつむらい さむ
笠井 久子
守田 キヨカ

子供の生活はそれ自体が遊びである。何故遊ぶのかなどと自ら問はうとしない。まして遊ばねばならぬなどと考えない。遊ぶこと自体が面白くてたまらないのである。遊ぶことの嫌いな子供があるならば、どこか異常な子供だろう子供らしくない子供だろう。子供の遊びの中には、子供の生活自身が打ちこまれている。教育という遊

子供の生活を離れては考えられないのである。教育は子供の生活の中に入って来なければならぬし、子供の生活の中で行なわれなければならない。とすれば教育は子供の遊びと縁遠いものではない。むしろ遊びの中に教育が見出されねばならないだろう。まして遊びと仕事とのけじめのはっきりつかない幼児期においては、生活・遊び・教育は切り離せないものである。子供が遊ぶ時の熱心さ、嬉しさ、楽しさでもって、大人が仕事に向うことが出来たならば、どんなに素晴らしい仕事が生れることだろう。好奇心にみちて、楽しく仕事をする時に子供は最もよく学ぶことが出来る。教育の効果はその時に最大である。遊びの中で学ぶことは、子供のからだの隅々までしみこんでゆく。絵を画くことも、歌うことも、製作することも、義務となり仕事となる。その中から子供の生活と子供の生命が奪われてしまう。教育の場の中の子供の生活も、喜びと熱意と豊かさにと満ちあふれたものでありた

い。街頭で、家で、又園庭で、子供の遊ぶ姿を時々眺めてみよう。身と心を傾けて遊んでいる子供の姿の中に、子供の具体的な生活を発見することが出来る。

子供の日常の遊びの中から教育の地盤としての子供の生活を見出すこと。そしてそれをもう一步発展させてゆく工夫をすること、を考えねばならないだろう。教育の歩みの一つの段階として具体的な遊びの姿を眺めよう。

冬の北海道

鷲山 さき

降っては消え降っては消えていた雪が、すっかり凍つきかたまっ*て*いわゆる根雪ねゆきになっ*て*しまうお正月前後には、和服を着た人々は皆雪下駄ゆきぞうりというのをはく。齒の下は止めの

金具が打込んであるので歩くとキュツと音がして、こんな時の気温は勿論零下である。いくら着込んででも外出は寒くて骨が折れる。だのに北海道の子供達の冬の代表的な遊びと言えばスキー、橇、竹スキー、それから近頃急に普及したスケートである。

一 スキー

スキーは雪の深い山村などでは単なる遊び道具どころではなく、学校に行くにもスキーお母さんのお使いで配給物をとりに行くにもスキーと言った具合で、

スキーは生活の必需品である。幾日かの吹雪が終ると北海道の天空が雲一つない紺青に牙え渡り、大地は野も山も白銀一色に輝き渡ってこういう日が何日も続く。このような快晴の日和を併人は深雪晴といっている。こちらの雪は内地の雪とちがってとてもさらさらしている。雪で着物が濡れる等ということは絶対にない。そのような雪の上にスキーをはいて乗るとスキーごと足首まで雪にもぐる。しかし、ストックを後方に向けてグンと突くとスキーはスィーと沁る。東京の人達には想像

出来ない程子供達は軽快に沁る。紅潮した頬を寒い空気ですぐに紅しながら、友達と呼交したり喚声をあげたり、或る時は鈴をつけた馬橇を追いつ追われつしながら、又或る時は雪煙を蹴たてて野山の一本道を山の斜面を飛ぶように沁る。この子供達が青年になれば早速山岳スキーをやるであろうしやがては団体スキーの選手にもなれる。然しスキーが生活に必須でない都市でも子供達はスキーで遊ぶ。幼稚園の子供達ですら自分の身長より長いスキーを使いこなして自分の家の附近の坂で打ち興じながら沁っている。でも市街地ではスキーをすべての子供が持っているわけではないむしろ持っているいない子供の方が多いと思

橇

市街地の子供達に一番普及しているのはスキーよりもむしろ橇である。之は坂道その他を踏み固めた根雪の上を沁るもので男女を問はず三つ四つの子供もやるし中学生位もやる。一人乗りの橇から四人乗りのものまである。大部分は一人乗りだ

が之は左のお尻と腰を橇の後半部にのせ、両手で橇の前面を持ち、右足は橇の後方に伸して腹這うような姿で乗る。この右足を丁度舟の楫と同様に使って、足先で雪にふれながら楫をとる踏み固めた急斜面を這る時はとても速い。とても素晴らしい勢である。橇が何台も続いて這る時など、ぶつかられては危いからひどく交通妨害である。だからと言って通交人の大人は此等橇遊びの子供を叱るかというて決してそうではない。むしろ子供達が這って来ながら大の男達に向って「去れよーッ」と叫ぶ。通行人はたいがい道の側に立って橇を見送りながら行き過ぎしている。橇遊びの子供達はそれを当然のこととして権威ある者の如き顔をして這り続け、次の通行人に又「去れよーッ」と叫んでいる。その橇を急に止めねばならない時は両手で橇の前面をぐっと上に持上げる。そうすると橇の後端部だけに重さがかかるから、後端部が踏固められた雪の中にめり込んでガリガリと音を立てながら止まる。子供達はこのことを「ガリを掛ける」と呼んでいる。女の子供は勿論これ程勇

壮には這っていないがそれでも色彩のきれいな毛糸の帽子を頭から被ぶって両端を襟首に巻いてぬくぬくと着ぶくれたセーターから手袋をはめた両手を出して橇を持ち危ぶなくない場所ではやはり汗をかきながら這っている。男の子供達は時には夜橇這りをやることもある。夜の坂道は人通りは少し又厚解けかけた雪が寒さでガンガンに凍るから橇のスピードはとても早い。そして何度も橇が這った個所は深くえぐられて道路の石が、橇の下側に打ちつけた鉄棒にふれることがある。凄いなスピードと圧力で鉄が石に当るからここから大きな火花が出る。相当大きな火花を出しながら凄いなスピードで橇が這るのには、初めて見る人は度胆を抜かれるにちがいない。又大きな橇に箱を置いてその中に二つ位の赤ちゃんが寒さに頬を真紅にさせながら乗せられて、大きな子供と一緒に這って行く様も見られる。この場合「ガリを掛ける」ことが出来ないから同乗の大きな子供はぶつからぬよう充分に注意しなければならない。このような橇遊びは確かに危険が多い。這っている

最中橇どうしぶつかったり電信柱にぶつかったり、ガリを掛けて止まった橇に後から別の橇が追突したり、曲角で橇が自動車や馬橇と衝突したりして、毎年どの坂でも何人かの子供が怪我をしたり死んだりする。それで学校でも家庭でもやかましく注意するが子供達が橇遊びを少し控えるのは精々二三日である。仲間の犠牲者の記憶が薄れると又すぐ元通りにやります。特に男の子供達に橇遊びをやめさせるのは三度の御飯を食べさせないよりもっと辛いことらしい。とにかく寒さも危険も忘れ切って大声をあげながら這って遊ぶあの元気な子供達の姿を見た人でなければ彼等の気持はともわかりそうもない。

竹スキー

竹スキーというのは孟宗竹を割ったのを三十センチ位の長さに切り、先を焙って曲げてスキー様にしたもので十円位で売っているので一番安上りである。二本の竹スキーに両足を乗せて橇が這るような踏み固められた坂を這る。之は少くとも小学校生にならなければ乗れない。でも上

手な子供は之でも結構楽しめるらしい。

スケート

スケートはこの二三年とても普及して来た。物資が豊かに出廻って、スケートが比較的安く入手出来るからであると思う。街の子供達は編上げ靴に打ちつけた正式のスケートよりも、むしろ普通の靴の上に丁度ローラースケートと同様に縛りつけるスケートを使うがこれは安いからである。スケートリンクでは勿論であるが、雪の少ない地方で田圃や川の上でスイスイと滑っている。又市街地の街路の雪が屋間解けた後夜凍ったような時は街路上でしきりに滑っている。自動車の通る大通りでもバスやトラックの走る相間に敏速にスイスイと滑っている。アイスホッケーの真似ごとでもやっている。これは苦小牧や室蘭にある日本でも一流のアイスホッケーチームの真似である。ゴンチャレンコとかアンデルセンとか云う名前を口にしたがらやっているのはこの前札幌で開かれた世界スケート選手権大会に刺戟されたことである。これ等誠に豪放なスケートという

スポーツは男の子等の最も懐れるもので、こ
の子供等の中から将来日本の世界的選手やア
イスホッケー選手が必ず出ると思われる。た
だ長靴の上にスケートを縛りつけて力一杯滑
るからどんな新しい長靴でもしばらくすると
足の甲の中程のところで破れてしまう。これ
がその子の母親の嘆きの一つであるらしい。

暖い地方でのお正月の代表的な遊びと言え
ば羽根つきと凧揚げがすぐ念頭に浮んで来
る。しか寒い地方では羽根と羽子板とを買っ
たところで、気温も高くすつかり雪どけのな
くなった初夏にならなければやるすべもな
く、ただ床の間に押絵の羽子板を飾っておく
のが精々であるし、凧も亦冬の遊びには絶対
に不向きで漸く真夏である七月、八月の頃、弄
具屋の店頭に凧の小さいのが売出され、広い
草原では奴凧やだるま凧が低い空で愛嬌を見
せている位のものである。室内ではストープ
がぬくぬくと焚かれていて東京の子供のよう
にかじかんでいることはなく、かるたもすこ
ろくもお手玉も暖い国の子供と変ることがな

く楽しまれているが、何といっても北国の特
色ある冬の遊びは寒さを忘れて大自然の中に
融込んでの勢ましい運動であると思う。

(知利別幼稚園)

冬の北陸

まつむらいさむ

冬——といえはすぐに暗い陰うつな空や吹
雪を思い、穴ぐらのような閉ざされた生活を
追想して、いやな消極的な気持になる。しか
しこれはつねに流転する自然の姿に惰性的な
感覚しか持てないおとなのことである。子供
は四囲の変化に敏感であり、しかもそれをた
のしんでいるのに驚かされる。どんなに寒く
も吹雪いてもそんなことには一向平気であ
る。子供はいつも新鮮に生きている。

お正月——ふつうの家庭におけるお正月の喜びはまずお正月にはじまる。この地方のお正月には、みそしるの中で餅を煮て、それにかつをぶしをけずってかけて食べるのであるが、それは子供たちにとってもなつかしくておいしい正月の味なのである。

——わたしはおもちを二つたべた。

——ぼくは四つもたべた

食べたお正月の数が子供たちの興味ある話題にのぼるくらい、正月のお正月には印象がつよい。

女の子にとってお正月のあこがれの一つはキモノである。一年の子の作文に、

きようは、なのしいお正月です。わたしは学校からかえるとちゆうにみんな小さい子らがきれいな長たものきものをきています。わたしはうちへかえって、すぐきものをきようと思いました。

うちにはいつてみると、おかあさんはわたしの長たものきものを出してまわっていました。わたしもさっさとおかあさんに長たものきものをきせてもらって

リボンをさして、なおみちゃんをだっこしてあげたら、わたしのリボンをなぶつてばかりいたので、わたしはなおみちゃんをおろして、いく子ちゃんのところへあそびにいきました。

というのを見ても、いかにいいキモノにあられているかがうかがわれる。いいキモノを着て、はねつきをしたりかたるたやすごろくあそびをしたりすることで、お正月気分を十分に満喫しているのであろう。

一月一日 はれ 吉田 文字

きようはたのしいお正月です。それはとてもよくはれています。わたしはお正月に三つたべました。それからがっこうへいった。みんないっしょにこえをあわせてせんせいおめでどうといたら、まつむらせんせいはにこにこがおで「みなさんおめでどう」とおっしゃいました。うちへかえってからおたものおべきをきました。おねえちゃんといっしょにはねつきをしました。よるはおとうさ

んやおかあさんとすごろくやとらんぶをしました。とらんぶのばぼりをしたときは、わたしに三べんもばぼりくるのでわたしはなきたくなりました。がんばつそうそうからなくとみんなにわらわれるのでがまんしてなきませんでした。

雪と子供——おとなにとっては生活の脅威である雪も、子供たちにとっては冬の遊びになくてはならない親しい友なのである。雪が来ると、子供たちは犬の子のように戸外に飛び出して雪とたわむれ、つもった雪でいろいろな運動や芸術をたのしんでいる。

子供がしている雪遊びを挙げてみると、雪なげ、雪合戦、雪おにかいば、雪すべり

などがあり、雪を素材として作る芸術には雪だるま、雪人形、雪うさぎ、すべりだ

い、雪自転車、ほらあななどがある。これらの遊びを一年の子供たちの絵日記から拾って紹介してみたい。

ぼくはねえちゃんとおとむさんとそれ

だけですべらんこ(すべりだい)をつくってあそびました。そしてぼくはうちへは行ってスキーをとってきました。ぼくははじめだからすべってころぶかもわからないとおもってすべったらすべってんころりんところんでしまいました。

子供はすべって走ることには大きなスリルを感じようだ。スキーのない子は、ござをしいてその上に坐ってすべったり、木箱の中に入ってすべるものもある。何度ひっくりかえってもあきないでやっているのが子供の姿である。

ぼくはこうちゃんといっしょに雪をかきあつめてたくしーをつくりました。かこうをとってから、たくしーのまどやいりぐちやすわるところをつくりました。すっかりつくってからこうちゃんとぼくとふたりでたくしーの中にはいりました。しばらくするとしようちゃんが「ぼくにもいれて」といってきたので、しようちゃんもいっしょにいれてあげま

した。

子供たちはばんば(木で作った雪かき)を持って、彫刻家が彫刻をするように丹念に作っている。自動車であろが船であろが立ちどころに作られていく。しかもこれらの作品はグルーブの力で協力して作られるところによさがある。みんなで作り上げる過程とそれをつかって遊ぶのが何よりのたのしみのようだ。

きょうむらかみくんとまんぶ(とんねる)をつくりました。ぼくはあせいっぱいになりました。うちへは行ってこたつで本をよみました。またそとへでると、まさとちゃんもまんぶをつくってました。

わたしはおにいさんとうちでまるくゆきをつんであなをほってからうまくいたをしてきてからあなのなかへはいりました。おにいさんもはいりました。あ

なのなかには四にんほどはいられます。わたしはうれしくなって三十ぶんほどはいました。

雪で作ったとんねるやほらあなの中は子供だけのたのしい世界である。よく子供たちがその中でままごとしているのを見かけることがある。中は寒くてせまくても子供の作ったうちはいかにたのしそうである。

凍て雪を対角線に行く子供ら黒鳩の如く

この句は雪が凍った二月はじめのある朝のこと、私の眼に映った一点景である。気温が氷点下になると積雪の表面がかたくなって、その上を歩いたり走ったりすることができるので、子供たちは道のないところでも田んぼの上でもどこでも広々とした雪原で思う存分走り廻って遊ぶことをたのしむのである。こんな冷たい日には子供たちはマントの帽子か防寒頭巾をかぶっているの、遠くから見るとちやうど黒鳩が群れているように見えるのである。

その他——室内での遊びとして、まりつきなわとび、お手玉、あやとりなどがある。あたたかいたつに足をぬくめながらあやとりをして冬の夜長をたのしむのも、子供の世界であろう。

以上述べた冬の遊びは、私の眼に映じた子供の世界を描いたのであって、まだこの他にもいろいろな遊びがあるかもしれない。

子供はその風土や環境に即して自由な創造をいつもはたらかせている。おとなが逃れたかと思つている「冬」を彼等は喜んで迎え、その中に没入し切つて十分に「冬」をたのしむことのできる新鮮さを持つている。

(福井大学学芸学部附属小学校)

冬の北九州

笠井久子

暖国九州は、雪国の方々の、想像もつかない様な事があります。

毎年十一月中旬より、翌年三月頃まで、霜を見ますが、其の間、厳寒といはれるのは、一月より二月十日頃までにて、正月に雪が降れば、非常に、珍らしい位で、一冬通して、三、四回位しか積りません。其の内、よく降り積つて、十糎程度ですし、而かも、温度が零度以下になるのは、冬期も一、二月頃の夜明け頃で、日の出と共に、暖まり、三、四度位が、厳寒期の気温です。従つて、当地方の児童は、雪国の、なだれの恐ろしさや、屋根まで以上の積雪は、写真以外には、見た事がありません。又寒気についても、零度以下、十度とか、二十度とかいう寒さが、どんなものであるのか知らないのです。

そのため、冬籠りという事がありません。元気な児童は、年中屋外で遊べるのですが、それでも矢張り、冬ともなれば、活動は鈍り(屋外は、雨の為地面が、乾かない日が多くなる)ストーブや、火鉢が、恋しくなり、室内の生活が多くなりがちで、消極的な幼児は

戸外の遊びを嫌い、外気に解れる機会が少くなり、一層抵抗力を弱める原因になります。

常に厳寒にも耐へ得る丈夫な体力は、初秋の頃から、薄着の習慣をつけ、屋外で、出来るだけ遊ぶ様、注意しなければなりません。

屋外の遊びの第一は雪合戦です。年に一

度は位は、雪が十糎位積りますと、大変です。空模様で雪だろうと思われる日は、大人も小児も、明日はどうぞ、雪がたくさん降る様にと、祈ります。朝雪を見ると、早くから、特に小児は騒ぎ出し、早速のおだんごや、雪のごはんが出来ますが、起きると、雪合戦が初まります。街角には、雪だるま、雪うさぎ等が並びます。

二階の屋根まで登り、雪をかき集めますが雪が足りなくて、泥混じりの雪玉が飛ぶありさまです。いくら歌を唱つても、仲々雪は降つて呉れないで、折角の、雪だるまも其内御日様に溶けて消えてしまいます。

然し子供達には、此の時ばかり、自然観察の方面から力を入れてよく指導します。

第二は風上げてす。お正月の野外での遊

びとして、子供には、よい運動と、興味を持つもの。お正月になると、川岸や、青芽の生え始めた麦畑の上空に、数十の、春風と書いた菱風や、奴風が、天高く舞う様は、寒さも忘れて見物に行き度い位です。

社日さん 十二月十五日に、社日さんという祭が、各部落で行われます。同年令の者ばかり集って共同の炊事をし、おごちそうをして、御互の親睦を計るのですが、大体姉さん達の世話で行われる。家族的な、地方の風習の名残りですが、次第に薄れる傾向があります。

ほけんぎょう 一月十五日未明、松の日が終了、十四日に少年が中心となり、メ縄や角松のお飾りを集めて、笹竹や大竹と一緒に燃やして、ボンボン音を立てて、勇ましく火の手を上げ、其の火でお餅を焼く遊びで、悪魔退散の折りと、保健の折りを兼ねたもので、大人も混って、強い子達が先頭立って行います。

草すべり遊び 河岸の堤防や、堤の土手の傾斜を利用して、「木そり」様の、簡単な

道具(木製)を作り、其れに袴って、滑り下りるのです、之はスキーの出来ない当地方として、滑べるスリルを、味い度いからではないでしょうか。

ローラスケート
スケートの感覚を味う遊びとして、男の児が好んで行うもので、(特に営業的)に靴裏に、小車輪をつけて、ガラガラいわせて、補装道路上や、コンクリート上を、滑る遊びです。

縄飛び ゴム紐や、綱で、両端を持って居て、高さを地上より、次第に上げていってその紐を、順次に、歌い乍ら、飛び越す遊びで、女兒が好んで行うその歌詞は

波は どんどと 打ちよせて
ここは 浜辺の 山のう
青空高く そびえ立ち
錦の旗が 立っている

次に、室内の遊びとして、各地共通のがありますが、矢張り、クリスマスが一番に考えられます。割に当地方は、仏教徒が、多い様

ですが、宗教的の意義を考えての事ではなく、四月八日の、お釈迦様の花祭りと同じく、社会的に偉大なる人物を慕うお祭りとしてクリスマスは取除けられません。

即ち、お飾りを作ったり、贈物を造ったりして、子供の楽しみを一つ加えてやるつもりで、計画的に、時間を掛けてやります。人間キリストや、サンタクローズのお爺さんについても、知らない父兄も、存外多く子供達を通じてのお話しも忘れません。

製作員として、お星さま、ローソク、靴下家、木、サンタクローズの面、わつなぎ等、共同作業します。歌は、ジングルベル等とし園長がサンタのお爺さんになり、劇の稽古も致します。

お正月のしたく さて、私達の、最も喜び楽しむお正月は、寒さと共に、ずんずん来るが、親の渋い顔に比べて、朗らかな児童の夢は益々暮ります。

すごろく作り 下絵は、画用紙十六枚に絵を書いたものを下二枚、ハトロン紙に貼り振り出し、上り等を製作させる。

ねこ貝はじき 小貝又は、ガラスの薄い

円形の玉で、畳の上で行う、おはじき遊び。

カルタ遊び 文字と、教に対する、初步

的な暗示と、興味を導入する事が出来る。

火鉢を囲んで 両手を表向けて揃え、お

せんべいが、焼けたかな、一二三で、さされ

た児は、裏返していき、順々に繰り返して、

早く両手が裏になったものが勝つ遊び。

ずいずいづつころぼし ごまみそずい

数人の児が、輪になり、両手を軽く脂先だけ

中空に握り、各自の作った穴に、皆で歌い乍

ら一人が順次に、人指し脂で、さしていき、

当った児は、手を引く、両手とも当って、早

く引き込められた者が勝つ遊びで、人数は次

第に減るが最後までする。

その歌詞は、

ずいずい、ずつころぼしや、ごまみそずい

しやつぽに、おはれて、とうびんしゃん、

ぬけたら、どんどこしよ、たわらのねずみ

が、米食ってしよ、しよしよっしよ、お父

さんがよんでも、お母さんがよんでも、い

きるこなーしよ、井戸の廻りで、御茶碗破

ったの、だあれ、わたし

まりつき まりをつく時、当地方では、

こんな歌を唱い乍らつきます。大体五十位の

数になります。

ねこねんねこ さかやねこ

さかやが いやならよめらかそ

よめりの どうじは 何々ろ

箆筒 長持 鉄み箱(裁縫箱)

此れしこ 持たせて やったなら

帰えろうてつども 思わすな

ねこねんねこ、さかやねこ

以上のようなものが、当地方に於ける、遊び

としてありますが、自由遊びを通してみます

と、男児の遊びは、屋外的で、活動的で、変

化も強いが、女児の遊びは、普通、羽根つき

石けり等の遊びが多く、性格的に見て、当然

の事と思われれます。お天気の時、出来るだ

け、屋外保育をして、粘土製作や、絵画や、

お話し、唱歌、リズム遊び等をなし、賭け遊

びの、ラムネ玉打ち、パッチ返し、等は中止

させ、健全な、集団的な遊び、例えば、ごろ

ごろさん遊び等、又福笑い等の、個人にては

興味がない遊びをと、方向づけています。寒

いからとて、お炬燵に入り切りで、一日を過

す事や、寒いからとて、その防禦面のみを思

つてやる事より、大いに活動して体温を暖た

める様、積極的な遊びに、方向づけて行き度

いものです。(久留米幼稚園)

冬の南九州

守田 キョカ

各地方に古くから伝わる特有な遊びは、そ

の地方に於ける古来よりの風俗、風習又数々

の伝説に裏付けされて、今日にいたるまで、

子供の遊びの中にも見られるようです。

その「遊び」の数々も特に戦後を境として

中央や他府県に於て行われていた所の「遊

び」が、ラジオにより、或は転入者によって

もたされ、当地特有の遊びは次第に影をひそめつつあります。

私共の幼い時に遊んだ遊びは、郷土のじゅうすいのものでありましたが、現在は余り遊ばれておりません。次に、二、三の遊びを記してみたいと思います。

本県の代表的民謡として全国的に知られている「肥後わらべ歌」によって遊ばれるまりつき遊びがあります。遊び方は、各地方のそれと共通して居りますので省略し、まりつき遊び歌を記します。

熊本市内で使われるまりつき遊び

あんたかたごこさ、ひごさ、ひごごこさ、くまもとさ、くまもとごこさ、せんばさ、せんばがわにはえびさがおるさ、それをりようしが、あみさでとるさ、にてさ、やいてさ、くてさ、うまさ、なつさ

天草の湯島のまりつき遊び

一、いもいもいも
二、にんじん、にんじん、いもにんじん
三、さかな、さかな、いもにんじん、さかな

な

四、しいたけ、しいたけ、いもにんじん、さかな、しいたけ

五、ごんぼく、いも、にんじん、さかな、しいたけ、ごんぼ

六、ローソク、いも、にんじん、さかな、しいたけ、ゴンボローソク

七、セリんく、いも、にんじん、さかな、しいたけ、ごんぼローソク、セリん

八、はがま、はがま、いも、にんじん、さかな、しいたけ、ごんぼ、ローソク、セリん、はがま

九、くじら、くじら、いも、にんじん、さかな、しいたけ、ごんぼ、ローソク、セリん、はがま、くじら

十、じゅうばこ、じゅうばこ、いもにんじん、さかな、しいたけ、ごんぼ、ローソク、セリん、はがま、くじら、じゅうばこ

わしげんやみや、(山)わしがおって、わしがてっぼうで、わしをうたたら、わしも、わしもたまがった。

冬期は火鉢やいろりをかこんで遊びに打興ずるのは、どこも同じであろうと思います。

一、ぶくてつぶく遊び

いっぶく、てっぶく、てんだいさんの、おとひめは、ゆられに、もまれて、なくこえは、びよくもんがらくおしやりこ、しやり、しやり、ときによってこれをひけ遊び方……数名輪になって、両手をこぶしにして出す。一人が歌いながら、こぶしをさして廻る。歌の終わった時、当たったこぶしを引く。そうして最後迄残ったこぶしの者が歌や色々な芸をする事になる。

蜂遊び

一がさした、二がさした、三がさした、四がさした、五がさした、六がさした、七がさした、八がさした
ぶんくくくくくくく

遊び方……一人が一がさしたで、手の甲を上にして出す。二、三、四と順々に手の甲をつまんで重ね八がさした(蜂)で皆一斉にぶんくくくく言いながら顔や手足をつまむ。

米国の都市の子供の遊び

USIS

何処の国の子供もゲーム遊びが好きです。遊び道具と名の付くようなものがない時でも子供達は棒切れや石やその他何でも見つけたものでいろいろのゲームを工夫します。

アメリカの都市ではゲーム遊びは子供達の生活から離せないものです。すべての大きな都市、又多くの小さな都市に、管理された児童遊園センターがありますが、多く子供達ははすっととっとり早く自分達の家の近くでゲームをして遊ぶことも好きです。都会では自動車や歩行者の交通が激しく、空地が少ないので、都会の子供のよく遊ぶゲームは大抵、最少限の空間と材料で出来るようなもの

です。一個のボールやびんの蓋や、或いはコンクリートの道路の上に二、三本線を引ただけで出来るようなゲームが一般によく遊ばれるようです。

此処に掲げる写真は、アメリカの子供達の最もよく遊ぶゲームの中の幾つかです。



二

が、そういうゲームは大抵何かたやすく手に入る物を一緒に使います。「スカリ」では、清涼飲料水の罐のふたの使い古しをう用います。それを人指し指ではおいで、番号をうったますの中に打ちこみます。それが得点になって、相手と競争するわけです。



男の子達がよく遊ぶ遊び。

「スカリ」と呼ばれるところのゲームは、アイルランド語です。もとはアイルランド人が発明した遊びなのでしようか、誰も確実なことは知らないようです。

平らな地面に白墨で線をひいて遊びます

「チャックス」と呼ばれる所の遊びは、年少の女の子の遊びと云えます。写真の手前に見える「チャックス」は、小さな金属で全国どこでも小さな店で安くて買えます。

この遊びでは、ゴムまりを弾ませて、その

間にチャックスを拾い上げ（十まで拾います）まりが地面につく前にまりを受けとります。最初の回は、一つのチャックスを拾いそれから二つ、三つ四つという風にだんだん沢山拾ってゆきます。片方の手だけ用います。失敗じつたら、相手の人に代ります。



「インディアン・レスリング」は体力の競争なので、男の子に喜ばれます。相手のバランスを破って、右足を動かさせるのが

このゲームの目的です。三日やって二回勝った人が勝ちです。

「縄とび」は極めて一般的です。

この写真では、二人の女の子が同時に縄が足につかないように跳んでいます。こういう材料と空間の要らないようなゲームがアメリカの大都会での一般的遊びです。



「リーダーのやる通りに」は子供達に大変面白がられて、一般的な遊びです。一人がリーダーに指名されて、その子供がいろいろの行動をしますと。あとの子供達が丁度

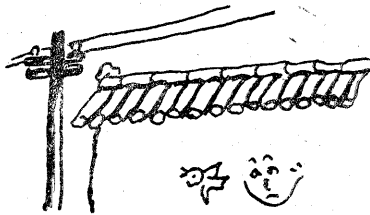
同じようにまねをします。今、土管の中から出て来た子供がこのゲームのリーダーです。後から皆がついて来ます。リーダーのやる通りに出来なかつた子供は除けられて新しいリーダーが出来るまで待ちます。



その他、かくれんぼ、馬とび、石けりなどもよく遊ばれる遊びです。

（米國大使館文化交流局）

こどもたちはどんなあそびをしているか



吉 幸 谷 室

この調査の意味

コドモらがどんな遊びをしているか。またどんな遊びを好むかを知るとは、こどもと生活的に接触が深く、またこどもの生活を善導しようとしている多くの学校教師や、家庭の母親・及び地域こども会・こどもクラブの育成に努力しつつある町の篤志家のために必要なことである。

こうして知りえたコドモの生活現実を重要な手がかりとして、ここに基盤をおきつつ「望ましき明日の生活設計」をこどもらのために有効適切に作る事が可能なのである。▽コドモの生活は「遊び」であるとも言われている。「遊び」の角度からこどもの生活に鉄を入れてみた。

ここに記録した「遊び」は、戦前から戦後にかけて（主として戦後に中心をおいた）東京

のコドモたちの間で、目撃されたものを十数年に亘って採集したものである。

▽遊びに使用する材料や、遊びの形式または方法の類似によって、次頁のように二十種の系列に分けて見た。

△印は男子中心のあそび
○印は女子中心のあそび

こどもたちは

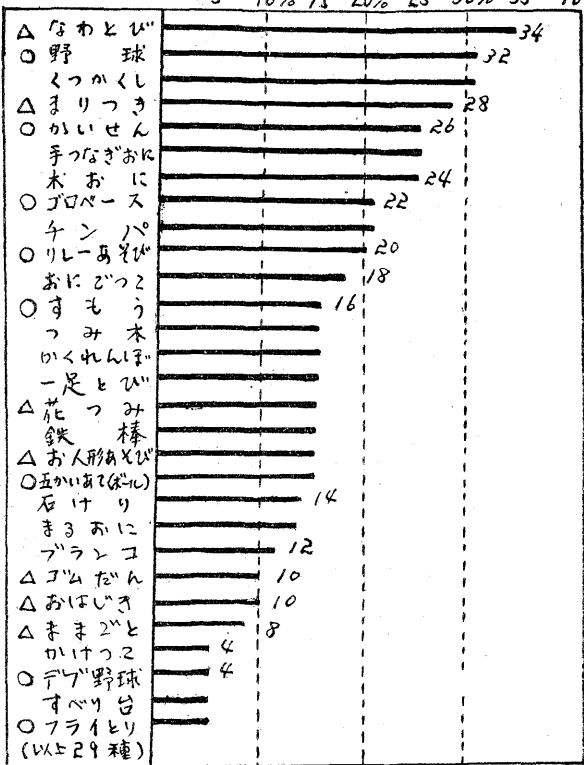
どんな遊びを好むか

▽どの遊びがより多く好まれているかは、八・九才全男女約百名についての最近（昭和二十九年五月）の調査である。

▽「何でもいから好きな遊びをしていいですよ」といわれたら、何をしようと思えますか。三つ位いづつその遊びを言ってごらん！そして話し合い形式によって記録をとった。

- 1 なわとび系△
 ゴムだん・くぐりぬけ・波のり・月火(ゲツカ)
- 2 指あそび系△
 あやとり・指すもう・おはじき・あみひも(花くさり・ビニール系指輪)ズイズイズ
 ツコロバシ・上り目下り目・ひよっとこ面
- 3 手あそび系
 お手玉・けん玉・割り竹・ハチさし・風船
 つき・はねつき・たこあげ・つみ木・ハンカチとり
- 4 ままごと系△
 :男の子は小学一年頃まで: うり屋さん(花屋・色水屋さん)・お客さま・お医者さん・お人形さん・宝くじ・電関・シヤボン玉・着せかえ・犬ごっこ・花輪つくり
- 5 じゃんけんあそび系
 馬のり・早つかみおに・天下おとし・二十勝ち・じゃんけん子とろ(花一奴)・旗かきジャン・じゃんけんとび(チグツバ)
- 6 かくれんぼ系
 かくれんぼ・かごめかごめ
- 7 石けり系
 一足とび・チンパ・温泉マーク
- 8 ことばあそび系
 9 おにごっこ系
 早つかみおに・手つなぎおに・ためおに・くつかくし・木おに・まるおに・けたた・すわりにお・かげふみ・ジャングルジム・かりうどさん・水雷あそび・軍艦あそび・天神さまの細道
- 10 ボール遊び系
 ※野球系○
 ゴロベース・三角野球・野球・フライとり
 デブ野球・五かいあて・紙野球・ビー玉あて
- 11 ※まりつき系○
 かけっこ系△
 リレーあそび・輪回し
- 12 メンコ系○
 かたメン・写真メン・まるメン・かくメン・ボン・メンおこし・ペーゴマ・ネッキ(ニツクイ)・メンひこうき・紙ひこうき・こま
- 13 戦争ごっこ系○
 戦争ごっこ・水合戦・ターザンごっこ・ギヤングごっこ・カウボーイあそび(二挺拳銃)・かいせん・木のぼり・ゴムパチンコ
- 14 陣取り系○
 Sとり(S合戦)うろことり
 15 げた釣り系
 ゲタ釣り・くつ釣り・ピン釣り
 16 探検あそび系
 たからさがし・おとし穴
 17 うつしえ系
 ぬり絵・はり絵(水絵)・こすり絵・日光写真・あぶり出し・がげ絵
 18 カあそび系
 腕すもう・ぎつたんばつたん・すもう・おしくらまんじゅう・馬とび・台とび・鉄棒
 19 平均運動系
 フランコ・すべり台・遊動円木
 20 その他
 紙芝居・将棋(山くずし・はさみ将棋)・五目ならべ
 ※遊びに歌を伴うものは
 なわとび系・手あそび系・まりつき系のものに多い
 ☆ あそび方
 ・手ぬぐいかくし
 町の銭湯で、鏡の後や桶の下、または風呂のフチなどへ手ぬぐいをかくす。見つかぬ時は「出し」といってかくした者が出す。

5 10% 15 20% 25 30% 35 40%



解説

遊びの封鎖性

世界に於ては、常にぞん新なものが求められているか。つまり新しいものを、とり入れることにより古い遊びを捨て去る——こういう活動がはげしく行われているかという点、必ずしもそうではな

い。遊びの世界に見られる「伝統維

持」の力は存外にしつこく根深い。今日なお

の大多数は、千年・五百年の時の流れに支えられている。(まりあそび・かくれんぼ・おにごっこ・お年玉・おはじき等)

世相と遊ぶ

子ども遊びは微妙な点で世相を反映している。あからさまに世相を模写する場合もある。しかもその多くは、人間の社会的弱点の産物であるようなものの敏感な吸収反射であって、心ある大人の眉をひそめさせ、ヒヤリと肝を冷やさせる。(戦争ごっこ、この異常な泥らん・ターザンあそび・宝くじバンバンごっこ等の性的模写遊びなど)

しかし一方に於ては、これらの遊びは根のない草が、うたかたのようなもので、時勢の流れと共に消滅して行く短命なものである。

遊びの流行力

新しい遊びの方法または遊びに伴う「歌ことば」が、どこで作られ、どんな方法で拡がるかについては、その創作源が明確に捉えられないだけに、興味深い問題といえる。新聞・放送・映画・雑誌等のマス・コン組織を使うわけではないが、その流行伝播の強さと広さと、速さには驚くべきものがある。

専ら「口から口へ」「手から手へ」の原始的伝達方法を用いるであろう子どもの遊びの流行の成功は、一に「子どもたちの欲求と興味との強さ」に支えられているものと言われ

よう。

新しい遊びの方法も「歌ことば」も、その創作と完成は、特定個人の署名によって為されるものではなく、つねにコドモの大衆群の知性と感情との参加によって為されコドモ大衆の認容を通して、成立・伝播する。

あそび方

木おに おにに追われて危い時、どの木でも木につかまるとつかまれない。(木が安全地帯) 助かる木を数本きめといてもいい。つかまつた者はオニの陣の木に手をつないで並び助けを求める。

まるおに 大きいまると、その中に小さいまるをかくておく。オニは小丸の中において大きなまるの中にいる者をつかむ。オニは大きなまるの外側に出て相手をつかんでもいい。

かいせん(助けおに) まず紅白二つの陣に分かれる。「かいせん」と叫んで両方の陣からかけ出す。「ドン」と言って相手の体を手をふれる。そこで二人でじゃんけんをする。勝った者は、すぐ負けた者を追いかけて、負けた者は自分の陣に帰りつく前につかまる

と捕虜となる。捕虜は相手の陣につれて行かれ、見張りをつけられる。捕虜は、陣の木に手をつないで立ち「助け」を待つ。

くつかくし オニが目をつむってる間にそれぞれクツかゲタかの片方を任意にかくす。オニに目をあけて、さがす。オニに見つけられぬうちに、オニの陣にゲタかクツを持っていくつつかける。

あそびごよみについて

コドモらの遊びの中には、きまつた時期季節にきまつたように現れてくるものが多数ある。これらは「季節の車にのって循環する遊び」と呼ぶことができよう。

次の表は、ほぼ一年を周期とし、年々同じようにくり返される。いはば「命の長い」遊び・短期間に消滅しない遊

表右側の○印は、男子中心に遊ばれるもの。
△印は主として女子に遊ばれるもの。その他は男女共に遊ばれるものを示す。

あそびごよみ

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
野球・ボールあそび ○											
メノコあそび ○											
石けりあそび											
馬のりあそび											
ターザンあそび ○											
すまう ○											
かみあそび ○											
陣取り											
たこあげ ○											
うつし絵											
おりつき △											
ゴムだん・たかあそび △											
あやとり △											
あてがま △											
はまごせ △											
しるしあそび △											

びについて整理した。

……線はその遊びの出現期(漸増期)消去期(漸減期)を示し、——線は一応の最盛期を示した。

遊びに対する嗜好は、男女によってかなりの差異が見られる。それはまた年々の経過とからみあって、複雑な「遊びの暦」を形成する。

一般に男子が活動的なもの(野球・戦争)を好む。女子が静的なもの(ままごと・お手玉・あやとり等)を好むのは、生理的必然から理解されることだ。

大まかな言い方では、「七・八才ころまでは遊びの上に性的分化は顕著に認められず」それ以後の年齢において、急速に、遊びの特殊化・限定化が現れるのである。

不備な点は、大方の叱正と協力と、今後の研究とにより完成を期したい。

いろいろなあそび方

▽ 二人が向き合ってしやがみ、両手でナワをもち、片方または、もう片方の間をくぐりぬける。 **なわくぐり**

▽ まず相手のウデをまくりあげ、相手の手のヒラを叩きテノヒラの上に自分のオヤ指とヒトサシ指を開いたハバだけとり、そのあとは自分のオヤ指の腹で指の太さだけ順にはかりあげていく。その時「オナベ オナベ」と唱えつつ、相手のヒジ関節部で止まり、腕をまげらす。その時ちょうど「ナ」で止まれば「ナキ虫」「べ」で止まると

「勉強家」だという。 **手あそび**

▽ 円陣になり手をつなぐ。中にオニ一人入り目をつぶってしやがむ。まわりの者「かりうどさん、かりうどさん、大きなえものをとりましたか」とうたいつつ歩き「か」で連手のまましやがむ。同時にオニは「ズドン」といい片手をのぼして任意の方向を指す、その手の方向に誰かがしやがんでいると、まわりの者「大当り」と呼ぶ。オニにその方向の子が誰であるか考えて名前を言う。あたればその子とオニは交代する。

はずれると、「大はずれと」言われて、前のうたくり返す。 **かりうどさん**

※この遊びは昭和二十四・五年頃大いに行われた。

▽ 三角野球……これはベースを三角形にお

いてする野球あそび。ボールを地面にころがして打つのが **ゴロベース**
ボールを投げて打者までの間でバンドさせバンドして上って来たところを打つ遊び方もある。

▽ 「トリノクソ」と手の甲につばで書いてこすっておいをかいてごらん。本当のトリのクソみたいなおいがするから。

手あそび

歌のあるあそび

——その歌ことば

(1)

一かけ二かけ三かけて

四かけて五かけて (両手人さし指はしをかけ)

橋のらんかん (手^{せわ}を腰に(手を腰にあてて)

はるかむこうをながむれば (手をかざし見る)

十七八のねえさんが (指おり教えて)

花と線香手にもって

もしもしねえさん どこいくの

私は九州鹿児島

西郷隆盛 娘です

明治十年三月三日

切腹なされたときさまの

おほか参りにまいります
おほかの前に手をあわせ

ナムアマダブツと拝みます

拜んだあとにはゆうれいが

フワリフワリとルジャンけんぽん

※以上のうたをうたいながら手で説明的な
ゼスチュアを入れていく。

じゃんけんあそび

青バラ小バラでトップ屋さんがブツ (バラツ)

トップ屋さんのあとから芸者屋さんが (まね)

ベン (三味線をひく手まねをする)

芸者屋さんのあとからおしゃれがホケ

おしゃれのあとから おまわりさんが エツ

ヘン オッホン

おまわりさんのあとから 泥棒が スマヘン

スマヘン

泥棒のあとから ガリバーさんが ドッシン

パツタン (足で強く地面をたたいて)

ガリバーさんのあとから おふろやさんが

ジャブジャブ ジャブジャブ

おふろやさんのあとから 子供が クルクバ

(両手を胸前でクルクルまわして拳を出す)

※このじゃんけんあそび歌は昭和二十九年
の一・二・三月にかけて流行した。簡単

なゼスチュアを伴った歌である。

じゃんけんあそび

(3)

月 火 (月火一人がなわに入つて二度とんで出る)

水 木 (次の者が入り二度とんで逃げる)

金 土

日よ——う日

※なわをまわしつづ歌う。このあと(4)
の歌にも続く。 なわとびうた

(4)

やまとの そよ風が

さーくらの しずこえて

ビーヒヤラ ビーヒヤラ 三代将

尾張の神さま 四代将

茶つぼに追われて まけたから

ソラ は——いれ

ソラ 出エ——ろ

※なわをゆりつづ波のりあそび。このあと
(3)にも続く。 なわとびうた

遊びに伴う歌のコトバには、注目
に値する諸種の問題が潜んでいる。

その一、二を書いた。

相(大人の世界)の反映だ。例えば(2)の

歌には汚職・詐欺等暗い世相への諷刺が含ま
れている。

その二は、流行性のある歌の曲律を借り、
たくみにコトバをすりかえた替え歌が見られ
ること。これらには性的興味の発散・満足等
の要求にこたえるものが多い。性に関係ある
あそびの中に適切な例が見られる。

これらはコードモをとりまく大人の社会生活
に顕在する欠損部面または病的偏向面をあり
ありと見せつけるものであり、コードモラの健
全な成長を願う人達の手で浄化を図らねばな
らぬ大事な問題である。

(5)

ホーラホラ

青山の えんど豆は 青くさい

おとのさま おひめさま けーらい 番頭に
げだした

一はッさん 二はッさん 三はッさん………

一おぬけ 二おぬけ 三おぬけ 四おぬけ………

……… なわとびうた

(6)

A 勝つてうれしい花一匁

B 勝つてうれしい花一匁

- A 負けてくやしい花一匁
 - B 負けてくやしい花一匁
 - A 負るさとまとめて花一匁
 - B 負るさとまとめて花一匁
 - A みかんまとめて東京へ送ろ
 - B みかんまとめていなかへ送ろ
 - A あの子ほしい
 - B あの子じゃわからん
 - A この子がほしい
 - B この子じゃわからん
 - A となりの○子ちゃん
 - B となりの×子ちゃん
- ※名ざされた子二人出てジャンケンして負けた者は勝った方の組に入り人数がふえる。
- A Bの二組にわかれ、手を横一列につなぎ向き合って歌いつつ前進→後退する
昭和二十六・七年頃最盛だった。

(7)

かごめ かごめ
かごの中の鳥は
いついつ 出やる
夜あけの晩に
つるとかめが つべった

うしろの正面 だアレ

(8)

通りやんせ 通りやんせ
ここはどこ細道じゃ
天神さまの細道じゃ
御用のない者 通しやせぬ
この子の七つのお祝いに
お札を納めにまいます
行きはよいよい 帰りはこわい
こわいながらに
通りやんせ 通りやんせ

人あておに

※二群に分かれて歌いつつあそぶ

(9)

上り目 さがり目 ぐるりとまわって
ネコの目 上り目下り目

(10)

ズイズイ スツコロばし
ゴマみそ スイ
茶つぼに追われて トツピンシヤン
ぬけたら ドンドコシヨ
俵のねずみが 米くって チュ
チュウ チュウ チュウ

おっどさんがよんでも
おっどさんがよんでも
いきつこなあしヨ

井戸のまわりで

お茶わんかいたの だアレ 「ヨ一子ちゃん」
※何人でも指を折り握り拳にして出してく
っつけ合わせ、指のスキ間を上からつっ
つきつ歌って行き「だアレ」で止まっ
た人の手の甲を出させ、一同順番に、二
本指でシツペをうつ。 指あそび

(11)

アンタがた どこサ 肥後サ 肥後どこサ
熊本サ 熊本どこサ センバさ センバ山に
はたぬきがおってサ それを獵師が鉄砲でう
ってサ 煮てサ 焼いてサ 食ってサ それ
を木の葉で チョイト かくせ

※以上の歌満足に終ると「一かん」とつた
ことなる。次にはスカートを左手でも
ちあげ、その下をまじくぐらせて歌をく
り返す。次にはまりをついて、ぐるり一
まわりして、前の歌くり返す。その様に
「一かん」とにまりのつき方を、さま
ざまに変える。昭和二十一・二年頃に盛
んに行われた。 まりつきうた

(12)

いちじく、にんじん、さんしょに、しいたけ

ごぼうに むきたけ なつめに はつたけ
くねんぼ とんがらし

※「十」の変つた数えことば。割り竹を取る時などに使う。

(13) だるまさんがころんだ

※おにごっこなどで「五千」「百」数えな
どの時、早数えする時の「十」の唱えこ
とば。

(14)

だるまさんだるまさんにらめっこしましよ
わらえばぬかす 一 二の 三

※「にらめっこ」の前のことば。

(15)

おしくらまんじゅう おされて なくな

(16)

どれがいいか、となりのおじさん(おばさん)
に聞いてみよ。

どれがいいか 神様にきいてみよ

※数個の中から 一つをえらび出す時 一
つ一つおさえながら唱え、最後の「よ」
で止まつた物をえらび取る。

あそびの始めと終り

始め——「先きめジャン」

「先とりジャン」

中止・反対・終り——「ダメしたよ」

▽ しっけい もっけい はなもっけい 花
が咲いたら またくるよ

▽ 指ぎり かんぎり 神田のおばさん 指
切つて死んだ

▽ うそついたら 針千本のおます

▽ さよなら三角 またきて四角 四角は豆
腐 豆腐は白い 白いはウサギ ウサギは
はねる はねるはバッタ バッタは青い
青いはユーレイ ユーレイは消える 消え
るは電気 電気は光る 光るはおやじのハ
ゲ頭

※これはシトリことばの置き方でいろん
な変化を見せる。例えば、

………ウサギははねる はねるはノミ
ノミは赤い 赤いは電気 電気は光る
光るはおやじのはげ頭

▽ じゃんけんのおさまさま

▽ チ・グ・バア

いし・かみ・はさみ

チヨキ・グウ・パツサラ——以上原型

▽ 軍かん軍かん(「いし」を出し) ハアワユ
ー(「かみ」出して)

沈ぼつ沈ぼつ(「はさみ」出して) ハアワユ

▽ ベテベテ(「かみ」ミッキー)(「はさみ」
クログロ)(「いし」ベッター)(「かみ」)

※この呼名は昭和十五年・二十一年頃より
数年大流行。手だけでなく両足を使って
もしきりに行われた。(両足をそろえてい
し) 両足前後にして(はさみ) 開いて(かみ)

▽ じゃんけんホクホク北海道(拳を出す)
じゃんけんアメリカ ヨーロッパ(拳を
出す)

▽ 朝鮮行つて(「はさみ」出す) バス買って
(「かみ」出す) 軍かんのつて(「いし」出す)
ホイ(で、勝負を決める)

※この呼び名は昭和十四・五年頃流行。

▽ ジャラケツ ポンよ

▽ チノ子(「はさみ」グの子)(「いし」ハ
ナ子)(「かみ」)

☆「ぴいちくびいちくなくひばり」……ひば
りの歌うたいつつ一節の切目毎に拳出し負け
た者抜けて順にへっていく。歌いつつ1・手
を拍ち2・隣の者と交互に掌を叩き合わす

(二拍子)この手拍子に合わせて歌う。
☆ 一度の勝を「一貫かした」「一貫とった」という。

その他のあそび

天下おとし オヤ(大将・天下)をきめ
オヤを最右翼にして横に列に並ぶ。一人が
左端の者の前に行き、じゃんけんで勝取りす
る。

じゃんけんは一度きりで、例えば「バ」と
唱えて出したのにつられて、列の者も「バ」
を出すと、勝となり左から二人目の前に行
く。

こうして順に大将に近づき、最後に大将と拳
を争う。この際大将の前に行った時は、「お
じぎ」をせねばならぬ。「おじぎ」を忘れる
と、初めからのやり直しとなる。もしうまく
大将を落とした時は、自分が大将となり、今
までの大将は「こじぎ」となる。

ゲタ釣り・クツ釣り

ひもの先に釘または
針金をまげたカギをつけておく。このひも
を「釣り手」の位置から投げ、クツにからま
せて引きよせる。めいめい自分のゲタかクツ
を片方づつ出しておき、ケンケン足が、片方

のクツ(ゲタ)に一方の足をのせて強負をす
る。たくさん釣り上げた者が勝となる。

ネツキ・ニツクイ

先のとがった木また
は大釘を使う。地面にうちつけてつきさす。
つきささった釘を、うちつけて倒す。倒すと
相手の釘が自分のものとなる。

メンおこし

相手の出したメンコの下に
自分のメンコをさしこみ、指先ではじき、は
ずみで上のメンコを引くり返す。うまく返る
と自分の者になり続けて行う。

ぎったんばつたん

二人が背中合せに立
ち、互に両手脇で組み合わせ、かわりばんこ
に相手をおんぶする。寒い時のあそび。

ハチつまみ(指あそび)

互に手の甲を
つまむ。その時「一がさした」「二がさし
た」「三がさした」と順番に手の甲をつまん
でいく。「七がさした」「八が(蜂)さした」
で、八つ目になった者の甲を、はげしく強く
叩く。

チンパ(石けり)

「先やりじゃん」で
順をきめる。まず1に石をおき、「チン」で
片足で1に立ち、「パ」で2と3にまたいで
立ち、次に「チン」で4にとび、このように
10までとび、くるりと向きをかえ、8・9か

らとんで1まで戻り、外へ出る。(その時1
の石を拾ってくる。いつも戻りコースで石を
拾っ帰る)次に石を2に入れて、前の「とび」
をくり返す。こうして石が3↓4と進み早く
10まで行きついた者が勝となる。

五回あて(まりあそび)

まず一人がボ
ールを投げる。投げたボールが三つはずんだ
らそのまりを誰かが取る。

取った者が一歩・二歩・三歩・四歩・五歩
と五歩とんで場所をかえ、まりを誰かをね
らって投げる。うまくあたると、あたった
者はアウト。ここで、あたるところがま
りを投げ者が馳けて行ってひろい次の誰か
にあてる。(この時ころがるまりは誰が拾
ってもいい)一人で順に五人にあてると、
あたった者五人は「死刑」ということで、
手をつないで一列に横並びする。

並んだ者に向かって更にまりをねらって投げ
る。この時ボールは首から下にあてなければ
ならない。

かんけり

カンヅメのあきカンを地面に
おいて、オニがそれを守る。

他の者はかくれる。オニは、かくれた者を
見つけて、つかまえようとする。オニのスキ

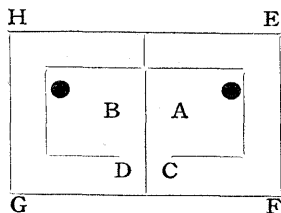
を見て、陣においてあるカンをけつとばす。

(それまでに、オニにつかまった者はカンのおいてある陣に集められて逃げ出せないが誰かがカンをけつとばすのに成功するにつかまっていた者は生き返って逃げる)

全部オニにつかまると、一番先きにつかまえられる者が、新たにオニになる。

SとりS合戦

地面に字形の陣をかく紅白二軍に分かれAとBとに入る。二つの陣の奥にそれぞれ宝物をおいてよく。(相手に宝を取られると負けとなる)両軍は、片足のケンケンとびで相手の陣に攻めこむ。その時のS字のどちら側をまわってもよい。



相手方の攻めこみ、敵を書いてある線の外へ押出すと勝となる。こうして順々に相手

を倒して、最後に宝を取った方が勝つ。

陣取り 紅白両

軍に分かれ、AとBとの陣に入る。

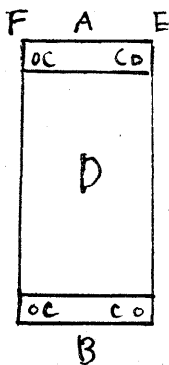
●印は宝物。C・Dは出口・入口でここから出入りする。E

F G Hは安全地帯で、ここに入っている間はアウトにならない。

陣を取囲む通路を走り、相手の陣に攻め入る。通路を走る際、敵方に押されて、線の外に出るとアウト。また通路の線をふんで足が外に出てもアウト。

敵方に早く攻めこんで、隅の宝物を取った方が勝ち。(宝物のかわりに陣を書いておいて、これに足がさわるか、手がタッチするかすると、勝負が決まることにしておいてもいい)

一足とび AとBとに分かれて立つ。自分の持石をきめCの位置におく。



「先きめジャン」で順番をきめ、先攻の者(今かりにAとす)は持石を持ちE Fの線に立ち(この線を踏むとアウトになる)Dの中の任意のヶ所に石を投げておく。

こうしておいた石を目あてに、その場所まで、助走して来、E Fの線から一ト足にと

ぶ。

その時持石をせまいはばでまたいで立つ。両足からはかって石が指巾の範囲にあるかどうかを確かめる。両足の広げた距離が指をひろげた巾以上だとアウトになって、競技はBに交代する

石が指巾の範囲にあって、つまりセーフだと自分の石を拾って、指先に一線を引く。その線に立って、ねらいをつけて、相手の石Cをねらって投げる。相手の石にあたるとセーフで、自分の石を持って元に戻る。

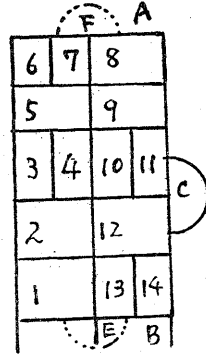
次は「二歩」になる。二歩というのは、前回の通りにE Fの線からD内に石を投げる。その石の位置まで、二歩でとんで達すればいいのだ。つまりそれだけ一歩より楽になり、敵の石に近く自分の石をおくことができる。敵の石に近ければ、それだけ相手方の石に当てることも楽になるわけである。競技は有利になるのだ。

こうして三歩・四歩・五歩と進み、しまいは十歩になる。

十歩になると「十足」自分の石を頭へのせそれから落として相手の石に当てて「一カ」の勝越しとなる。

それからまた二カン目は、一足からはじめる。

温泉マーク AとBに分かれて立つ。E



Fは自分の持石をおく所。Cの場所を「100」と称する。

とび方はチンバのように、1・2はチンで片足でとび、3・4はバで両足でまたいで立つ。5はチン。6・7はバ。8はチン。9はチン。10・11はバ。12はチンで13・14はバとなる。どこでも線をふむとアウトになる。

(男と女が数人の場合は、たいいてい男組・女組に分かれ、向かい合って立つ)

今かりにBが先攻となると、持石を1に入れて、チン・バで13・14まで進み、向きをかえて、また1まで戻る。石の置いてある1

まで来ると、石を拾って外へ出る。次ぎに石を2に投げられて、前通りのとび方をくり返す。こうして順々に進み、石が14まで

進むと、一回終りとなる。そして書いてあるワクの外側を三回まわり、Cの「100」の中に立つ。そこで陣の方に背を向け、つまり後向きになって自分の石を投げ、入ったワクに虫マークをかく。(つまり投げた石が今5に入ったとすると、5に虫をかくわけだ) こうして虫のついた所は、バアになる。両足でとんでいいことになるから、それだけ楽になる。

Aの者がとぶ時には8・9から始めることになる。またAとBとでつける虫マークは互に逆向きの印となる。

バアの所は□のように仕切つてあるが、これを図のように仕切つておいてもよい。

手あそび(こすり逃げ) AB向き合つて両手を出す。今Aが両掌合せて出すと、B

はその外側にAの手を被うように出す。そこでAは右手を引抜いてBの左手の外側に持つていこうとする。持つていってBの左手の甲をこする。Bはこすられぬように逃げる。右左思いのままにする。

時勢の流れとあそび

一般社会の興味の焦点の所在を物語る遊び

二、三をあげよう。時代嗜好の傾斜の産物としてこれらの遊びは、歴史の一隅に書留めらるべきものだろう。

Gメンのピストル(昭和十一年)から、敵前渡河(昭和十四年)へ。相撲あそび(昭和十六年)から戦後の宝くじ・パンパン(昭和二十二年)へ。これは遊びによって綴られる昭和日本の歴史でもある。

敵前渡河……マツチ棒六本でイカダを組み押しながら壘のへりを越える。

土合戦……防空壕で土を掘り合う。後から投げればならぬというルールがある。

粘土でタンク作り。マツチ棒さして大砲とし、日の丸をつけて立てる。

以上昭和十二年より十七・八年にかけてギャンク映画「Gメン」の広告が出た。

それだけで氷柱をピストル形にして、擬して遊ぶ子、にわかにあふえる。

※昭和十一年二月・北海道

試験期で紙のジャンケン取りはやる。一人で千枚二千枚とためる。

※昭和十年前後。入学試験華かの頃。

紙で相撲取の形を切りぬき、紙上の土俵にのせて取組ませ、手で紙面をバタバタ叩

いて相撲をとらせる。

「片やチンボン・片やコンボン」

「のこったのこった、昨日のまんじゅう半分のこった。去年のヨーカン半分のこった。」

▽ 二挺拳銃……昭和二十七・八年の西部劇

（映画）の刺戟による盛行。

▽ 宝くじあそび 也マーク

ことばあそび

—音階もじり—

▽ ドラネコそら来た どしたらヨカンベ。

▽ 一でもない二でもない 三べた野郎 四

りもしねえ 五たふく野郎 六でもない

七面鳥 八つたおせ こん畜生 十んでも

ない

※机を手で打ちつつ右の文句をいう。

▽ トーフ屋のオヤジが豆食ってパウ トー

フ食ってパウ いも食ってパウ くうさい

よ

▽ 大寒ム 小寒ム どうかの子供がとんで

った。

—悪口（あざけりことば）—

▽ へのへの学校 へぼ年 ばか紐

—おにごっこで—

▽ ヤーイとんがり八本とんがり十本ここま
でこいよ。

▽ 或時、空にカリがとんでいた。雨が降って
雁がさかきにおちて来た。ナンンだ。

それは「アメリカ」

▽ オッベケベ オッベケベ オッベケベッ

ポベツポツポ 蛙の目玉にきゅうすえて

それでもとぶならとんでみな オッベケベ

オッベケベ オッベケベッポベツポツポ

※昭和九—十年頃流行した。

▽ 。。。。（こまるこまる大こまる）

—念仏くづし—

▽ ナンマイダア ナンマイダア 一枚だ

二枚だ 三枚だ

▽ ゆさゆさ こんぼ（木の枝にのりゆすつ
て）

—封じことば—

▽ そうです・はい・いいえ・黒・白の五つ

のことばを使ってならぬと決め、会話中使

った者はアウトとなる。

—反対ことば—

▽ 何でも反対のことばを使って話し合う。

あざけりことば

▽ ○○（学校の名）の先生 ポロ先生 一

タス一もしらないで 黒板たたいて泣いて
いた。

▽ 君はえらいよ 西郷さんだよ 上野の山
で立たされ坊主

▽ 「ピンとカントどっちがいい」（ピンと答
えると「ピン之」「カント答えると「金

持」という）

▽ 「ゾーキンとバケツとどっちがすきか」
バケツと答えるとバカ。ゾーキンと答える

と手をねじりまげる）

▽ 「ハイ」と言わせてみようか。

「ウン」と言わせてみようか。

▽ 「あらうしろにマッチがおちてるよ」後を

見ると「マッチがってごめんなさい」

▽ 「音ごとに下唇をまきこみ尾音を添加す
る。例えば「なりました」を「なワリイマ

ワレイたワ」

—類たたき（昭和十四・五年頃）—

すべりや（云いながら両手で頬をなでる）

いたりや（で、頬をつねって）

ドドイッ（で、拳を握って頬を叩いて）

オイ（で、頬を平手で叩く。または拳を出
してじゃんけんをする）

面相あそび

▽ ひよつとこ面

目尻を二本の指で押しあげ、一指で鼻の穴を上向きになるように押さえる。

▽ ひたいを叩いて舌を出す

次にノドを右手でつまんで手を右に動かすと舌も右、左に動かすと舌も左に動かす。

次にノドを引いて舌をひっこめる。

遊びを書いた子供の文

1

学校からかえるとき、豊川さんとわたしでお花つみをしました。白とピンクののぼらを一本づつと、雨ふりあさがおを五つと、雨ふりあさがおのつぼみを六つと、むらさきいろの小さいお花をとってかえってきました。それからむぎのおれたのを一本づつとてきました。おうちにかえってかびんに入れておきました。まだびんびんしています。おどりにいったかえりにばらをとってきました。だれど名まえがわかりません。 **花つみ**

2

今日は日よう日なのでともひろちゃんとあ

そびました。はじめに温泉マークをしました。私ともひろちゃんと、どっちがチンバ

うまで作って、できないので、作るのをやめました。 **家作り**

4

を先にやるか、じゃんけんをしました。それたらわたしの方がバアで、ともひろちゃんがグウなので、ともひろちゃんが負けました。するとおねえさまが戸をあけました。「おとしあな作らない」とおねえちやまがいいました。それで、みんなでおとしあなを作りました。おとしあなを作ったら、みんなで「だれをおとそうかなあ」といって、けい子ちゃん

ぼくは木のはごをいただいて、はんせんを作った。まずノコギリでさを三角にきった。ボールがみを長四角に六まいきった。おとしを二本もらって柱にした。舟にきぎをうって、それと柱とむすびつけてみたけれどもまくいかなかった。今、半分作りかけたままぼくの机においてある。 **工作遊び**

5

と、上のおねえさまをおとしました。それでけい子ちゃんのくつ下をまっくろにしてしまいました。私は、けい子ちゃんに悪いことをしたと思って、おとしあなをちよつと、うめました。 **温泉マーク・おとしあな**

今日のおひるごろ、松の木のおばちやまがいらっしゃって、おもちゃの汽車をくださいました。おばちやまの子のかずのぶくんは、バットをかってもらって、とくいになってふりまわしていました。ちかちゃんは、ピアノ

3

うちのうらに、こわれた門がおいてありました。それをこわして、まいちゃんといずちちゃんとぼくとで、家をこしらえました。はじめに高さのおなじほうを四かく立てて、いたをよこにうちつけて、はこで入り口のところ

です。おばちやまがかえってから、ぼくと弟と、ざぶとんのトンネルの中へ、汽車を走らせたり、ジープとしようとなつさせたり、車庫を作って車庫に入れたりしてあそびました。弟は、すぐねじがゆるむたんびに反対にまきます。それでも汽車はこわれません。汽車ははしるときに、ビビビビと、カナリヤのこえみみたいな音をたてて、はしります。あまり

おもしろいので夜まであそびました。

7 汽車ごっこ

今日は母の日。わたしはあさ早くおきて、ごはんとおつゆを作りました。ごはんをたべながら、わたしはクローバーをつんできて、おかあさまの指わを作ってあげました。おかあさまが「ありがとう」といいました。わたしはうれしくてたまりません。なにかをやっているまに、おかあさまの指わがちぎれてしまいました。ちぎれた時には、指わはどんなに悲しかったでしょう。でも母の日にこんなにお手つだいたのははじめてです。

7 花布作り

きょうは、せつちゃんとさずこちゃんとして学校ごっこをしました。せつちゃんは先生です。はじめは「悪い話」で、「あ、先生のスカートやぶれてら」なんて、とてもおもしろかった。

7 学校ごっこ

(明星学園教諭)

昭和30年度フレイベル館新学期用品



☆ 保育日誌(用紙)

☆ 出席カード・貼紙

☆ おさいくちょう
(大・小)

☆ じゆうがちょう
(特・A・B・C)

☆ おりがみ

(二十色、特製・並製A四寸・五寸V)

☆ まんてんくれよん
(十二色・十色・八色)

昭和三十年度の新学期用品が完成いたしました。昨年より一層よい出来栄えだと、自負いたしております。幼児になじみ深いくだもの花の観察をあわせ編集した出席カード、美しく楽しい装幀のおさいくちょうじゆうがちょう、内容を特に吟味したおりがみ・くれよん、いずれも幼児教育にはなくてはならないフレイベル館の新学期用品です。なお、右のほか種々取揃えてございます。お申込みは当社または代理店へ！



“子供にとって幼稚園はどんなところでしよう”

水 原 泰 介

幼稚園の生活によって、色々のよい習慣や性質が形成されると云われています。ところが、その反面、幼稚園に通わせると、こまっちゃんとした生意気な子供、神経質な子供、気の散り易い飽きっぽい子供になり易いと云うような心配をする人もあります。このように幼稚園生活が子供に与える影響について、利点や欠点がとりあげられて色々なことが云われていますが、これらの何れの側の主張も、単なる主観的判断に基いてなされているに過ぎない場合が少なくないようです。この問題については、もっと沢山の客観的な精確な研究が進められなければ、未だどうとも結論の下しようなない点が数多く残っているようです。

このような問題を根本的に解明し、幼稚園教育に伴い易い欠点を防ぎ、幼稚園教育の長所を益々伸してゆくためには、我々は『子供達にとって、幼稚園はどんなところか』ということをはっきりと理解する必要があります。子供達は幼稚園に来て、環境をどのように認識し、環境からどのような

影響を受け、どのような行動をとり、どのような心理状態を経験しているのでしょうか。例えば、満足や失意の経験はどの程度に起っているか、どのような人、もの、場面が満足や失意をひき起しているか、先生や他の子供はその子供に対する抑制、強制援助などがどの程度に起っているか、その子供には周囲の事情がどの程度にのみこめているか、その子供の行動はどの能率的、効果的、創造的であるか——と云うようなことが我々に十分に理解されなければ、幼稚園生活におけるどのような点が子供達の望ましい特徴の発達を助長し、どのような点が望ましくない傾向を強めているかについて正確な判断を下すことは困難です。

以上のような点を明かにするためには、網羅的で而かも精確な行動観察が必要なのですが、その話に入る前にここでちょっとこの問題とは別の方面に於て客観的な行動観察による分析的な研究が大きな成果をあげている例をお話ししましょう。或る事務能率の研究者が或る大会社の事務員達の勤

務時間中の行動を逐一記録してそれを分析してみたところ、彼等の事務のとり方に非常に無駄が多いことを見出しました。この事実を会社側に報告して事務のとり方の改善をさせたところ、事務能率は一挙に二倍以上に高まりました。この会社には何十年もの間、実際に事務をとり、且つ事務のとり方の指導や監督を行っている有能な専門家が何人もいるのに、このような事実が何故それまではわからなかったのでしょうか。それは何十年もにわたる長い間の経験に其いての判断も、客観的な精確な行動観察によって得られたものに較べると、可成り貧弱な、粗っぽいものにとどまり、事務のとり方の現状の精確な把握が行なわれていなかったからです。ただ普通の仕方で見ているのでは、たとえ、よく気をつけて見ているも、それから得られるのは不十分な、偏ったものにとどまる場合が少なくなく、そこから新たに問題を見出したり、事態に対する深い理解に到達することは比較的稀です。

この研究者が事務員の勤務中に於けるあらゆる行動を細かく分析することによって事務活動の中に含まれている全ての要素が明るみに出されました。そして、これらの要素の中のどれが事務能率を促進し、どれがそれを阻んでいるのかが明になったのです。私達もこの研究者がやったように、幼稚園に於て子供達がおかれている環境条件やそこで行動を客観的な観察法を用いて細かな点まで詳しく分析したら、幼稚園生活が子供達にとってどのような意味をもっているかが、現在わかっているよりもつと細かな点まではつきりとして来るのではないでしょうか。

このような観察法としてどのようなものが適當であるかについて、ここで詳細に述べることは紙面の都合で割愛しなければなりません。これに近い観察法の一例を極く簡単に紹介してみようと思います。これは私の研究室の井田薫子さんが行っている研究です。井田さんは約二ヶ月間、この観察法の練習を重ね、正確に記録がとれるよ

うになってから、ここに述べる一人の三才児（男子）の行動観察を行いました。この観察の対象となった子供は、身体、知能、社会的成熟度、家庭環境等々の点から見て極く普通の子供を選びました。従つて、この子供の観察結果から、この子供以外の普通の子供のことについても或る程度までは類推が出来るのではないかと思います。

この研究では、その子供が幼稚園に来て（午前九時十五分頃）から帰る（午前十一時三十分頃）までの間に起つたその子供のあらゆる行動と、それらの行動に関係のある周囲の状況を出来るだけ詳しく記録しました。観察結果の分析にあたっては、或る行動が開始されてそれが終るまで（或は他の行動に移るまで）を一単位の行動として扱います。例えば——太郎さんは積木のところへ行つて、楽しそうに歌をうたいながらおうちを作る。そこへ次郎さんが来て行こうよとさそうと、積木をそのままにして直ぐに二人で一緒に外へ走つてゆく——と云つたような場合には、太郎さんが積木の

ところへ行つてから、(次郎さんから声をかけられたために)積木遊びを止めるまでが、一単位の行動になります。この三才児の場合には、幼稚園についてから帰るまでの間に337単位の行動が見られました。この337単位の一つ一つについて次のような点でどのようになっているかを評価します。

(1) 精力的——その行動が精力的に活潑に行われたか。

(2) 創造的——その行動に創造的な工夫がなされていたか。

(3) 要求水準——その行動は、或る定まった目標が立てられていて、その達成をめざしたものであったか。

(4) 満足感——その行動に満足感がみられたか。

(5) 欲求の強さ——その行動は強い欲求をもってなされていたか。

(6) 環境の理解——自分がどのような立場におかれ、他の人々は、自分にどんなことを期待しているかをはっきり理解しているような振舞い方であったか。

(7) 落ちつかなさ——その行動は落ちつきのないものであったか。

(8) 欲求不満——自分がやりたいと目ざしていることが、何かの障碍にあって実現を阻まれている状態であったか。(自分はやりたくないのに、無理にやらされたりして、それから逃れられない状態であったか。)

(9) 葛藤——やり度いことが二つ以上あってどちらによりかと迷う葛藤状態やその他の型の葛藤状態が見られたか。

上述の項目についての評価の結果、夫々の特徴が現れていると認められた単位行動の数は次の表のようになりました。例えばその行動が精力的に、活潑に行われていると認められたのは337単位の行動の中147単位です。そしてこれは43.3%にあたります。

ここでは紙面の都合で、九項目の評価についてだけ述べましたが実際にはもっと沢山の項目について評価してをります。これ等の沢山の項目についての結果を総合的に検討することによって、幼稚園に於ける子

	評価項目	単位数	%
1	精力的	147	43.3
2	創造的	29	8.6
3	要求水準	105	31.1
4	満足感	144	42.7
5	欲求の強さ	105	31.9
6	環境の強理解	125	37.0
7	落ちつかなさ	83	24.6
8	欲求不満	107	31.7
9	葛藤	111	32.9

供の世界が、可成り細かな点まで把握されそうです。ここにあげた例の子供の場合でも、これまでには気づかれなかつたような事実が幾つか見出されています。例えば、この子供の幼稚園生活の中に欲求不満や葛藤の状態がこれ程多く含まれていたことなどは予想外の事実でした。

私の研究室では、もつと多くの子供について同様の研究が続けられておりますから、この幼稚園が子供達にとつてどのような世界であるかがもつとよくわかる日が来るでしょう。

幼稚園が異ればあるいは受持ちの先生が異れば、そこに於ける子供たちの世界も異なつた特徴を示すだろうと予想されます。

どの幼稚園が優秀で、どの幼稚園が劣悪であるかと言ふことに關しても、夫々の幼稚園に於ける子供達の世界が、どのような特徴をもっているかが明かになれば、今までよりも、もっと確かな、実質的根拠の上に立つて判断を下すことが出来るでしょう。

また、家庭内や家庭の周辺に於ける子供達の世界と幼稚園における子供達の世界とを比較することによって、幼稚園生活のもつている意義がより一層明確になるでしょう。

これ等は、何れもまだ明かにされていない問題であつて、その説明は今後の研究にまたなければなりません。従つて、本稿に於ては、幼稚園に於ける子供の世界がどのようなものであるかを客観的、科学的な研究方法によつて明かにすることが、幼稚園教育の現状把握や改善のために重要な意義をもっていることを指摘し、そのような研

究法の一例として近頃始められた一つの研究を紹介するとどめました。

(お茶の水大助教授)

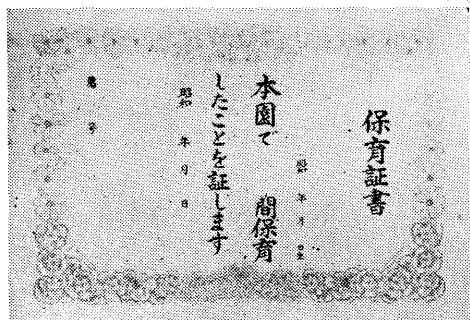
昭和30年度フレイベル館新学期用品



☆保育証書 大(A・B) 小

☆賞状用紙

保育証書は大のA・Bと小の3種あり、大はB4判で輪郭鳳凰、菊撫子の模様で金粉刷。小と賞状用紙はB5判、特に紙質を吟味、賞状用紙はいろいろの賞状に使用できるよう、美しい輪郭のみ印刷いたしました。



☆園児募集ポスター

A・B・Cの3種あり、

A2判多色刷、黒崎、林

相沢先生の美しく楽しい

図柄です。

保育証書

本園で 園保育

したことを証します

昭和30年9月

全國私立幼稚園教育 研究大会を終えて



代智義柳青

日本私立幼稚園連合会も、創立されてから今年で六年になる。どんな事業でも先ず三年位は事業としての形態をととのえないう、組織的にならないものとされている。だが六年にもなれば、その準備の期間はとうに過ぎたのだから、形態もとのい、組織化されて一応充実期にはいったものと考ええる。

連合会は現在傘下に全園二千校を集め、教職員数は一万余名の大組織体になった。そして事務局を私学団体総連合会内におき常時、小学校、中高、大学等の全国団体の

事務局と席を並べて、全日本私立学校の向上発展に提携し協力しているものである。また、全国都府県にはすべて私立幼稚園協会が組織されている。連合会の下部団体として、地方色豊かな適切な事業を各々活潑に遂行していることは心強くまた逞しさを覚えるものだ。連合会は全国下部団体の連絡のために、毎月会報を発行して、連合会の活動状況を絶えず報告すると共に、地方各団体の活動状況を会員に悉知するようになっている。

この連合会も今日の組織体になるまでには先輩同志の永い献身的努力にすることで、隠れた功績に対して心から感謝を捧げ度い。また全会員の理解と協力に対しても感謝し度いと思う。殊に創設当時に全国組織化のために活動された同志に対しては感謝の念を禁じ得ないものがある。私立学校の行政が、民主化の線に添って全面的に改められる状態に対して、いち早くその対策を樹立するためには、私立学校の全国的な結果が求められた。小学校、中学校、大学等は率先して全国的団体を組織化し、実到大同團結私学団体総連合会を結成して強

力に今後の私立学校の方向を研究決定して運動を展開している。その状態は実に目覚ましき限りであった。それに対し幼稚園はどうか全く手がつけない状態で、私立学校であり乍ら、全私立学校の活潑な動きからとり残されて行きつつあったのだから、誠に心細い思いをさせられた次第であった。このままでは、幼稚園はどうなるか、私立学校の今後の運命が決定されつつあるとき幼稚園だけが発言権のないのは大変である。どうかして一日も早く、私立幼稚園を組織化し、連合会を創立して、私学団体の一翼に加えて貰って幼稚園としての主張をしなくてはならない。全国組織へ、斯うして全国行脚に、また呼びかけに苦心と努力した思い出は、今でもつきないものがある。

幸い昭和廿四年には曲りなりにも、日本私立幼稚園連合会が創立された。また有望の日本私学団体総連合会にも、その単位団体として加入を承認された。強大な実力を有する私学団体総連合会に役員を送ったときの喜びは今でも忘れ得ないものがある。その後の私学の行政については、幼稚園は

及ばず乍ら、主張と協力をして来た次第である。

× × ×

全国私立幼稚園教育研究大会は日本私立幼稚園連合会としてははじめての試みとして今夏七月卅、卅一日の両日観光地別府に於いて開催されたものである。昨年五月に連合会の年次総会が、名古屋市外、犬山城社に於て開催された際に、全国から参集された代議員によって、この研究大会の開催の件が緊急提案され、満場一致で賛成された。更に大分県私立幼稚園協会より、廿九年度総会を併せて、研究大会をも開催地として引受けるとの力強い意志表示がされてこれまた全会一致で決定して、茲に本会としては初めての全教職員を招聘するところの研究大会の開催が大決りになった次第である。

特に研究大会の開催が要望された理由は、〃私立学校教職員共済組合〃が設立されて、全国私立幼稚園教職員にも、公立教職員と同じく健康保険と恩給制度の恩典が適用されることになったため、教職員一同の生活上の安定感に測り知れないものがある。

り、この際全教職員を対象にして本研究大会を開催して、この劃期的な共済組合の誕生を記念すると共に、日常の本務である幼児教育に対して一段の研究と精進を誓い度いとの趣旨であった。未だ連合会としては大規模な大会を主催するには幾分の困難も考えられるが、大会の開催を敢行することになったのである。

斯うした事業は云々する余地のないことだから、誰しも反対はない、容易に決定されるものである。だが実施となると言葉で決定される程容易でなり、大変な事業である。だが私立幼稚園の向上発展のため、更に全教職員のために万難を排して計画し実行したい、実行しなくてはならないと、ひとしく決定に拍手をおくられた総会代議員は考えられたことと思つた。

その後、開催地である大分県私立幼稚園協会は、その会員数は廿数校に過ぎない、その準備のために代議員帰県と共に奮迅の活動を開始された。そして一ケ年はすぎた果してその成果はどうか、

愈々諸般の準備がととのえこれ、先ず七月廿九日には別府二条館に於て、昭和廿九

年度総会が、全国より参集した代議員、一六〇余名によって開催された。定款による諸事項の審議に次いで各都道府県より提案された諸議題について、流汗、激暑を忘れて実に熱心に審議され夕刻無事終了したが引続いて翌日からの幼稚園研究大会の運営、委員会が開催された、終日会議の疲れも忘れての熱意は、私立幼稚園連合会員としての同志意識の強烈さが痛切に感じられて心強い、全国的に組織化され、当時その連絡提携をしているとは云いながら、初めて全国から教職員一五〇〇名を招聘することである。最善緻密な準備おさおさ怠りなくしたとは云うものの、研究大会が円滑に無事に敢して終了し得られるか、委員全員の緊張と祈りは一つと思われた。

研究大会は別府市公会堂が第一会場である、前夜から全国より参集の会員は別府の宿舎は続々として到着され、別府は幼稚園大会一色の気分となる。大会当日は、定刻の九時には会場一、二階共に満員となった壯観である。準備のため活躍されている委員諸氏は緊張のうちにも喜びは隠せないようだ。当日船便で到着する全員のために、

一時間おくらせて、來賓諸賢を案内されていた県地元の司会者は、既に全会員が集合された会場をみられて、気をもむこと、酷暑満員の会場につめられた会員の身になつてみれば待たされてはかなわなわけだ。

開会式で特に感銘の深かつたことは、來賓として臨席された大分県知事殿の祝辞であつた。知事の母堂は明治初年にはじめて鹿兒島県に幼稚園が師範附属として設置されたとき、若き身を以つて遙る々々その幼稚園主任として官命によつて、東京から赴任を命ぜられて、幼稚園教育に献身された、云はば開拓者の一人であることを語られて、特に本研究大会には深い喜びを持つことを以つて会員を激励して頂いたことだつた。遇然とは云え誠に嬉しい御祝辞だ。後で向うを通り、遍の文書祝辞を秘書の方が持参していたが、会場に望んでから、この思い出を語られた由、引続いて行われた、二〇年以上の私立幼稚園勤続者、二七九名の表彰は、知事の語られた母堂の生涯と思ひあわせて、一段と感銘深く、感激的な拍手のもとに表彰状と賞品が授与された。

開会式のあと研究大会議長、役員を選出

があつて議題の整理と提案を済ませた。午後は、左記の記念講演に移る。

▽幼稚園教育に望むもの

自由学園教授 羽仁説子氏

▽幼稚園教育の新しい方向

東京都立大学教授 山下俊郎氏

幼稚園教職員には指導的な極めて新鮮有益な講演であつた。両講師は講演後第一分科会の指導講師として、分科会にも出席して頂いて、また、文部省玉越三朗事務官には第二分科会に出席願ひ、議題協議の指導的な役割を果して頂いた。分科会の構成は

▽第一分科会 教育内容に関するもの

▽第二分科会 経営管理に関するもの

分科会の議題は、全国府県協会より提案されたもので、その数は両分科会共に、十数議題にて、どの議題も本連合会として主要問題であるが、何分余りに議題が盛沢山である。大会にて分科会に与えられている協議時間は極めて短い、到底充分な協議と会員の総意をまとめあげることは困難である。そこで連合会としては各議題について予め専門委員を委嘱し研究して、議題参考資料を作製していたので、分科会の参考と

して、また会員が研究資料として持ち帰えることも出来て、好評であつた。

第二日目は、大分市教育会館が会場となる。別府から凡そ二キロ位か、全会員は觀光バスで大分市に向う。別府から大分への海岸線沿いの觀光道路は美しく整備されていて快適な乗り心地、途中車を止めて高崎山に立寄り野生猿の棲息地を見学する。海岸から二、三〇〇米程はいったところ、全くの低地であるが、野生猿が道傍に、樹上に安心しきつた様子で出ている。投げ与える南大豆を器用に皮をむいて食べる様が面白い、なかにはすくなくと云つて裾をつかまれて袋ごと取られた暴力猿に御難の先生もいる。仔猿をかかえた母猿も多い、親子の愛情のはほえましき、親について移動して行く際の面白さ、会員一同珍しい動物の生態を観察することが出来て大嬉び、神経質な野猿をよくここまでならしたものだと思ひもさせられる。高崎山にある山寺山主の愛情と努力によると云うが、全く人を恐れないようだ。

第二会場教育会館は創立以来、はじめての人員入場の由、分科会の報告次いで指導

講師團の羽仁、山下、玉越諸講師の適切な講評を頂いて会員一同研究討議に対して充分な反省と光彰を添えることが出来た。

斯うして二日間に亘る研究大会は万事順調にすすみ、閉会式となる。開催地私立幼稚園協会に対する会員代表の感謝の辞として答辞、共に真情あふるものがあつた。

特に地元の私幼として万般の準備をされ諸君の心惜察するに余りあるものがある。順調、無事成功裡に終了した喜びに、挨拶の言葉もつまる。会場より「螢の光」を以つてこの喜びと、明年度石川県金沢市の大会にまた再会を約し度いと希望が出る。実に同志的、感激的な閉会式であつた。この団結意識こそ、連合会の特色であろう。私立幼稚園と云う一色の純粹さから、初めて生れ出るもので、他の色合いが加わると斯うした気分は到底生れ出でないと思う。

日本幼稚園界は、国公立と私立の両団体にて二分されているが、性格も、両団体の主要課題も共に相似た点なり、相異なる点の方が多い。その主体性の確立、強化に重きを置いて現在のまま両立して行くことが正しいと思う。それがそのまま全日本幼稚園

界の発展への大道ではあるまいか。

(感応幼稚園長)

この秋最初に与えられた良書は「乳幼児と現代の文化」であつた。

私たちはさきに

A・ゲゼル著 乳幼児の心理学によつて、出生から五才

までの成長発達の大偉大な資料を得

た。今又この乳幼

児と現代の文化に

よつて成長するこ

どもと文化のそれ

それに年令におけ

る姿の一般を充分

に理解することが出来る。

この状態にある幼児たちの指導はいかにあるべきかは次の問題である。

その「保育上の技術」の面で物的環

A・ゲゼル著 依田新・岡宏子訳

乳幼児と現代の文化

—その発達と指導—

書



評

お茶の水女子大学附属幼稚園長

及川ふみ

健全な愛情は豊かな科学的な基礎の上にたつてい
る。
保育の実際にあ
たるものは絶えな
い知識の修得こそ
のぞましいことだ

境、適応、移行、先生、言葉、ユーモア、グループ活動など保育者としての細かいところがまえ、とそれの場その場においての先生のあり方についても教えられる点が多い。

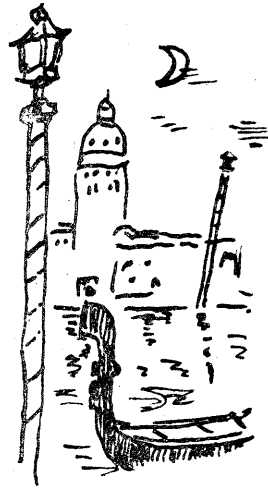
×

×

×

×

幼児への
クリスマス伝説民話



上 沢 謙 二

クリスマス童話については、毎年方々で語られる。しかし伝説は割合になおざりにされている。そこでここでは、幼児向のそれについて書くことにした。

鈴 蘭 の 花

(パレスチナの伝説)

或る時、子供のイエスさまがお友だちとあそんでいました。みんな渡れて、のどがかわきました。イエスさまは井戸へ

走って行って、お椀へいっぱい水を汲みました。けれども、自分で飲む前に、お友だちのところへもってきました。するとひとりずるいお友だちは、何もいわないでいきなりお椀を取りあげると、どんどん飲んでイエスさまに渡しました。水はお椀の底の方にすこし残っていました。イエスさまは受取ると、ここみました。そこには、足もとに、のどがかわいて弱った草が、しおれて生えていま

した。イエスさまがお椀をさかきにする
と、水はたらたらと、草の上へおちまし
た。すると、草は生きかえったように顔
をあげましたが、その根もとから、ちよ
ろちよると、つめたい水が湧きだしたの
です。そうして流れだしましたが、流れ
ていくその両側には、小さい白い花がず
うっと咲きだしたのです。鈴蘭の花――
その花は、こういう美しい名で呼ばれる
ようになりました。

子供のキリスト

(ドイツの伝説)

或る寒い夜。ふたりの子供が家の中で
火にあたっていました。すると、こここ
とと、かすかに戸をたたく音がしたので
あけてみると、ぼろぼろの服を着て、帽
子もかぶらない、靴もはかない子供が立
っていました。がふるえ声でいきました。「
私中へ入ってあたってもいいですか。ふ
たりは親切な子供でしたから。いいです
とも、おはいりなさい」といいました。
「ありがとうございます」見知らぬ子供
は入ってきました。ふたりの子供は自分

たちのバンをその子供に分けてやって自分たちの寢床へ寝かしてやりました。

真夜中になって、ふたりの子供はふと目をさました。すると、何ともいえない美しい音楽がきこえてきたのです。音のする外の方を見ると、おどろきました。白い光る衣をきた子供の天の使たちが大勢、金の堅琴をひきながら、こちらへやってくるではありませんか。と——急にパツと部屋じゅうが明るくなりしました。びびりしてふりむくと、そこには見知らぬ子供はいないで、その代り、その子供たちよりもっと光りかがやく衣をきたひとりの子供が立っていたのです。その子供たちはぐるりと家を囲んで、金の堅琴を鳴らしつづけましたが、それはなつかしいクリスマス音楽でした。立っていて子供はいよいよ光りだして、まぶしくて見ていられないようになりましたが、声がひびいてきました。「私は寒くてふるえていた。それを家の中へ入れてくれた。私はのどが渴いておなかですいていた。それを飲ませてたべさせてくれた。私は疲れて弱っていた。

それをやわらかい寢床へ寝かしてくれました。私は、親切な子供たちを仕合せにしようとしてやってきた子供のキリストである。お前たちは、私にそんなに親切にしたらから、この木は、毎年よい物をつけるだろう。」そうして手にもつていた木の枝を入口のところの土へさしました。「あつもし」ふたりの子供は呼びとめました。もうその姿は見えませんでした。気がつくと、その大勢の子供たちも、いつの間にかいなくなつて、表はまっくらくしずかになっていました。そうして入口には、丸い金の実をたくさんつけた樅の木が生えていたのです。それから毎年、クリスマスになると、その樅の木には、美しい丸い金の実がたくさんつて、きらきらと光りました。

パプスカおばあさん

(ロシアの伝説)

それは、キリストがお生まれになった夜のことでありました。ベツレヘムからは遠いところの一軒の小さい家の中にパプスカというおばあさんが、火にあた

っていました。表は雪がどどんふつていました。と——戸をたたく音がするの、立ちあがってあけると、おばあさんがさし出す蠟燭の火に照らされて、三人のおじいさんが立っていました。三人は「今晚は」といいました「私たちは遠くから旅をしてきましたが、今晚、ベツレヘムというところで神様の赤ちゃんがお生まれになったことをお知らせしようとして寄つたのです。私たちはその赤ちゃんに贈物をもつてきたのですが、あなたもいっしょにいきませんか」おばあさんは「折角ですが、もう夜更けですし、たいへんな雪ですから」といって戸をしめてしまいました。そうしてまた火にあたりましたが、おばあさんはひとりぼっちなので、子供がすぎました。それでさっきおじいさん達がいった「神様の赤ちゃん」という言葉を思い出したのです。「神様の赤ちゃんといえは、偉い赤ちゃんにちがいない。あしたになったら、その赤ちゃんのところへ、おもちゃをもつていってあげよう」ひとりごとをいいましたが、やがて床へはいりました。朝になる

と、パブスカおばあさんは長い上着をきて、たくさんおもちやを入れた袋をもって、杖をついて出かけました。ところが困りました。ゆうべ、おじいさんたちに、ベツレヘムへいく道を聞いておかなかったのです。それでおじいさんたちはどっちへいったかわかりませんが、もうよほど遠くへいったでしょう。「いそいでゆかなくては——大いそぎ大いそぎ。」おばあさんはとっととあるきだしました。村を過って、町を過ぎて、森を越えて、とっとと。そうして人に遇うと聞きました「神様の赤ちゃんはどこにいらっしやるでしょう」けれども、知っているものはありません。しかし聞かれた人はいいました「もつといきなさい、もつと」そうするとおばあさんいそいでゆかなくては——大いそぎ大いそぎ」といって、あるいていきました。こうしておばあさんは今でもまだ「神様の赤ちゃん」をさがしてあるいています。そうしてクリスマス前の晩になると、方々の家へやってきて、しずかに杖で戸をたたいてころへきていると、眠っている子供の

て、中へは小さな声でたずねます「神様の赤ちゃんはここにいますか」しかしそこにはいないので、いそいで出ていきましたが、その前に、袋の中からおもちやを出して、子供の枕もとへそつと置きます。「神様のお子様のために」といいながら。クリスマスの前、目をさますと、枕もとにある贈物は、このパブスカおばあさんがくれるのです。

☆ ☆ ☆

伝説の特徴は、一定の時代と、場処と主人公をもつことである。一地方の史的事実に関係しているが、それに作りばなしが加わっている。しかし作りばなしの部分も、嘗ては事実と信ぜられたものである。松村武雄博士は「半歴史的半空想的」といった。その意義としては、愛郷心の所産であること、民族的誇りをあらわすこと、価値ある行為の模範を示すこと、過去の時代に対する知識を提供することなどが挙げられる。

「真実」といえば、普通「事実」即ち客観的にあらわれるものを指す。しかし

客観的にあらわれないものも存在する。心の中に活動する思いや、感情や、要求がそれである。これは、麗々あらわれるもの以上の影響力感化力を發揮する。例えばウイリアム・テルがわが子の頭上の林檎を射おとして、代官ゲズレルの横暴を挫いたという有名な話は事実でないといわれる。しかしその話は東西にひろがって、大きな感化を及ぼした。それは客観的事実でないにしても「そうあれかし」「そうあり得る」「そうあるべきだ」という思いが、人々の心の中にあつた。これを「主観的事実」といってよからう。その事実が形を採って客観的にあらわされたのが伝説である。だから、伝説は「見える事実以上の見えない事実を客観化したもの」ということができよう。この意味において「深い真実」ということもできよう。

それから伝説の特徴は、民衆の所産だということである。それはお布令や、指示や、勤告のような天降りて出来上がったものではない。自然的に生まれ、自発的に育ち、自動的にひろがっていったも

のである。それは往時の民衆の思想、信仰希望、理想、不満、抵抗の活潑な切実な表現に外ならないのである。

だから、その表現は素材であり、卒直であり、簡明である。ところで、子供の心理は素材であり、卒直であり、簡明である。文化の或る段階における大人の心理と、現代の児童のそれと共通するものがあることは、進化説、社会学、心理学などでいわれるところで、これが、伝説が子供に訴える所以であると考えられる。

クリスマスは信仰の絶対的な対象であるイエス・キリストの降誕という大事件である。そこに驚異、尊崇、希望、理想が匂きだすのは当然である。それがおのずから形を取ってあらわされるのも当然である。その影響力感化力が極度に発揮されるのも当然である。それで、聖い、美しい、意義深い、さまざまな伝説が生まれたのである。そうして今日の子供の心に強く訴えているのである。

クリスマス伝説に含まれた精神は、きわめて庶民的なものである。キリストはあわれな子供となつて、いぶせき家々を

見舞うのである。貧しい者は貧しいが祝福を受けるのである。生まれたばかりのキリストは早くも厄難に襲われて、沙漠の旅にのぼるのである。そこにあらわれるものは、子供と、庶民と、貧乏と、苦しみである。その祝福と浄化である。

民衆から生まれて、下からもあがったクリスマス精神は、大凡今日のクリスマス——御馳走と、パーティーと、大売出しと、ダンスとは、似ても似つかぬものである。まったくその正反対なのである。

現代の進歩的史学者の一人である松本新八郎氏は、嘗て「民話は生きてゐる」という顯下に、こういうような意味のことを述べた。

民話は一定の郷土色と共に、民族的国際的につながる共通のものをもつ。民話にそれぞれの育つた郷土があつて独自性を有するが、その中に含まれるテーマは時代時代に創られてきたので、同じような条件のところには、同じ系統の話が発見される。そこで、民話は共通の文化世界に匂きかけて、その創造に寄与する

ろいろのすぐれた特徴をもっている。ところが、日本の民俗学者は、それを「亡びゆくもの」として取扱ひ、専ら保存することを仕事にしている。そうしてカード箱の中に押込めてしまった。しかし我々はそれを社会に取り出さねばならぬ。そうして民話を発展的に承継して、現代に将来に活かすことを考えなければならぬ。

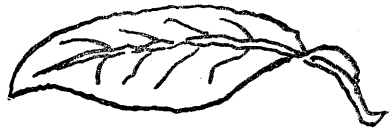
クリスマス伝説を幼児に与える幼児教育者としては、特にクリスマスのこの際改めてそれを見直して、再考三思すべき必要があると思うのである。

〔附記〕拙著『世界クリスマス伝説集』（東京中央出版社発行）十四箇国に亘る三十六編を収む。

保育の本質から見て

組分け保育か！

合同制保育か！



鈴 木 豊 蔵

の条件によって組分けし、保母はそのどの組か受持ち、責任をもつて保育していくやり方で、この方法は最も多く用いられていると思う。これをかりに、組分け制保育法といっておく。

その三としては子供の組分けはしておくが、各保母は固定した受持ちというものがなく、ある組を一週間とか、二週間とか、一定期間保育すれば、他の組に順次交替して行くやり方である。この方法をとっているところは少いと思うが、これを交替制保育法といっておく。

以上二つの場合の保育の仕方をあげたが、これ等の方法には、それぞれ一長一短があつて、一概に、何れがよいとか悪いとか、いい得ないものかも知れない。

二 合同制保育の吟味

合同制保育法は、季節託児などに用いられた方法で、保育法としては、便宜的初歩的な方法かも知れない。交替制保育法も本質的に見て、合同制保育と大体似たものである。

この保育法は、施設全体を有機的な一箇の保育の場とし、全職員が一丸となつて保育に当る方法で、各保母は、施設全部の子供を一視同仁に見、どの子供に対してもみんなで責任をもち、公平に愛し公平に保育していくという大層結構な方法のようである。この方法だと、何人かの保母の中、一人位欠勤しても大した支障もなくやっていると、保母の労力も比較的均等になることであろう。しかし全体的保育の中心となる方と、従属的補助的立場に立つ保母に分れることも確かである。

どの子供の問題であろうと、その責任は保母全体にかかっているわけで、子供の怪我、何か事件が起きた時の処置、父兄との折衝、家庭訪問など、ことごとく保母全体が、公平に責任を負うことになる。然し、いざという場合、最後は主任保母のところに行くことになるだろうから、その他の保母は比較的軽い気持ちでおられるかも知れない。

一 保母の受持ち制のいろいろ
保育所によつて、子供の受持ち方には、いろいろあるようである。例えば、その一つとして、帳簿や事務上の分担はあつても、保育の実際においては、各保母に、固定した子供を受持たせないで、子供全体を一団とし、何人かの保母が、共同して保育するというやり方である。この方法をかりに、合同制保育法と名づけよう。

その二としては、その反対に児童を年令別とか、心身発達の程度とか、その他いろいろ

これは、比較的小さい保育所で行われる方法かと思うが、色々の面から検討して見ると相当欠陥の多い方法だと思ふ。その点は、次に述べることによつて、自らはつきりすると思ふので、ここでは述べないことにする。

三 組分け制保育法にしたい

前に述べた方法には、それぞれの長所短所があると思うが、保育の本質から考察すると第二の組分け制保育が最も優れた方法だと思ふ。この方法は、一人の保母が、受持つた子供の全部の責任を引受けて保育する方法ではあるが、常に施設全体としての有機的運営に注意し、お互に連絡提携し、協力することを忘れてはならない。

保母が、施設全部のどの子供も、公平に愛し、公平に保育し、施設全部の子供について責任をもつという事は、言葉の上では如何にも結構のように聞えるが、実際にはなかなか六ヶしいことである。どの子供も平等に愛しているという事は、どの子供も愛していない、どの子供にも責任をもつという事は、どの子供にも責任をもつていないという結果になり易いのである。

1 保育の本質から見て

保育の対象は

あくまで個人々々の子供であつて、子供一人一人を立派に保育し育成して行かなければならないのである。それには、子供一人一人をよく理解し、それに適應した保育をしなければならぬ。ところが、子供一人一人を見ると、からだの弱い子強い子、臍病質の子、しらみばかり、知能の優れている子、精神遅滞児、ボスの存在、おとなしい子、乱暴な子、盜癖あるもの、はにかみや、うそつきの名人と数限りもない。全く十人十色であり、万人万様である。

これ等の子供を、正しく理解することは容易なことではない。少くとも自分の受持つた子供についてだけでも、一人一人について、生れる前から今日までの生活歴を明かにし、その環境、特に人的環境、病歴等を調べ、同時に知能、性格、興味、向性等、科学的方法によつて観察し、実験し、テストして、身体的にも精神的にも、その個性をつかまなくてはならない。そのためには、家庭を訪問し、色々親から聴取し、必要によつては医師にも相談し、ケースワークもしなければならぬ。

一面、保母はこまやかな母性愛をもつて包容し、指導する必要がある。愛情をもつて、子供の喜びを喜び、悲しみを悲しんでやつてこそ、保母に対する信頼感が高まつてくる。そうすると子供は、自然心安くなすいて来先生の宅を訪れ、或は話し或は遊んで行くようになる。『先生は、昨夜あんたがこんなよいことをした夢を見たよ。嬉しくてたまらなかつた。』とか、『今朝は、あなたがよい子になるように。神様にご飯を上げて拜んだ。それからはあんなことしないのね。』と、親しみ深く話合う間に、心と心、人格と人格が融け合つて、手におかない子供も、遷善、感化することも出来、問題児も問題児でなくなつてしまふ。このような保育をするには、合同制の保育では到底望み得ない。

2 保育所の家庭化から見て

元來、保

育所に措置される子供は、家庭において、保育に欠けるところのある子供たちである。朝起きて食事をすまし、急いで家庭から送り出され、夕方は帰つて食事をすると、眠むくなつて寝てしまふ。『家庭は、文明の所産の中、最も高い美しいもので、子供の精神と性格の基礎が形成されるところだ。』と、いわれて

いるのに、単に食事をとって寝るところに過ぎない。このように家庭的に恵まれない子供であるから、母親としては、たまの休の日には、どんなに忙しくとも、子供のために時間を割いて、温かい家庭的情味を味わわせてやるように、何とか工夫してやるのが親の義務ではないか。

保育所としては、この欠陥を補うために、不十分ながらも、家庭代りの役をつとめなければならぬ。その家庭代りの役目を果たすところは保育室である。保育室は、施設の母と慕われる保母が中心となり、愛情をもって結びついた家族であり、家庭でありたい。嬉しいこと悲しいこと、何があっても飛びこんで来て、母代りの保母に報告し、喜愛を分かち合う慰安の場所でありたい。食事を共にし、眠くなればみんなで午睡もする。こうして、保母が何から何まで面倒を見てやるところに、家庭化の実がある。合同制保育や交替制保育では、到底このような本質にふれた保育は望み得ないのである。

3 疎開児童保育の実例

或る雑認に、次のようなことが書いてあったのを、興味深く読んだことがある。これなども粗分け制受

持ちの重要性を裏書きしたものだと思うので参考のため掲載する。

『戦争中、東京の愛育会幼稚園では、戦争が激しくなり空襲されるようになったので、何人かの保母さんと、一団の幼児が地方に疎開した。そして子供等の一団を、数名の保母さんが共同して、公平に世話することにしたのである。』

ところが数日たつと、子供達がだんだん元気がなくなり、ホームシックのようになってきた。保母さん方はどうしたものかと心配したのであるが、指導者の森脇さん(心理学者)の考えで、次のような処置をとった。今度は幼児たちを保母さんの数に分けて、一人の保母さんが特定の子供だけを世話するようにした。そして、出来るだけ家庭の親子関係に近いものにし、例えば、保母さんが時々東京に行くことがあるが、帰りにはお菓子などのお土産を持って来たら、自分の受持ちの子供だけに分けてやるというようにした。そんなにしていくうちに、子供たちはだんだん生気を取り戻し、元気な態度を示すようになって来た。』

こんなにかまれた子供たちを、よみがえらせ

る慈雨は、家庭的情味であり、保母の愛情であつたのだ。

子供には、もともと愛情を独占したいという基本的欲求がある。大きい団体の場合は、その欲求の満足が得られない。人数が少い時程、この欲求に合致して来る。このような例から見ても、一人の保母の受持つ子供の数はなるべく少いものにして、家庭的情味豊かにする工夫を考えなければならぬ。

(福島県立高等保母学院教諭)

幼児の教育第五十三卷 総目録

第一号

家庭、保育所、幼稚園 倉橋 惣三
無課題 牛島 義友

アメリカの最近の幼児教育と日本の幼児教育の課題 津守 真

W・H・O主催児童精神衛生会議に列席して 平井 信義

年頭にあたって 山村 ぎよ
疍のつよい子、落ちつきのない子

幼児の知能検査の問題 広瀬 興
村山 貞雄

新しい保育者のために 鈴木 豊蔵
この子供たち(8) 松原 至大

第二号

国富友次郎先生を悼む

倉橋 惣三・笹野 静江
坂本彦太郎・岡 秀

「ねえや」のこと 波多野 完治
幼稚園にカリキュラムは必要か

和田 実・芦田 昇
竹田 俊雄・海 卓子

松村 康平・坂内 ミツ
武田 一郎

幼稚園の今昔(静岡県) 林 成子
遊び体育から 村田 修子

雪国からの便り 榊原 武
遠足事件 柴田 南雄

この子供たち(9) 松原 至大

帰って来ての第一頁 斎藤 文雄
和田実先生を悼む 坂内 ミツ

新入園児を迎える 竹中 京子
高森 孝子

遠藤 孝子
大阪府私立幼稚園連盟創立二十年を回顧

して 佐藤 富子

倉橋先生をお迎えて 中西 ヒサノ
(座談会) 戸倉先生をむかえて

戸倉 ハル・及川 ふみ
松村康平・外お茶の水大

幼稚園職員一同
知能テストについて 小口 忠彦

幼稚園の今昔(福島県) 玉川 喜代子
「小人の汽車」の作者は語る

中島 研六

第三号

幼稚園教育の義務制と幼年教育

山下 俊郎
園児を送る 徳久 孝・天方てい子

新入生を迎える 小林 操・樋口 澄雄

小原 武雄
(座談会) 乱暴な子供

第四号

松村康平・吉野弘子・平井信義

津守 真・村瀬祥子・及川ふみ

水原泰介

小学生にみられる幼稚園経験の有無による差異

関 治子

幼稚園のスムック一案

第五号

愛情への一つの道 及川ふみ

幼稚園教育で何が一番重要か(アンケート)

——先生方の声を集めて——

幼児の宗教教育 エム・エフ・スクルトン

(座談会) 仮性精神薄弱児

津守 真・富樫純子・平井信義

松村康平・村田修子・堀合文子

外お茶の水大幼稚園職員一同

職員室の精神衛生

平井信義

この頃の私の幼稚園

内匠 慶子

保育所生活三十年

篠田 加津子

幼児の言葉から

加藤 清子

粉乳の正しい知識

稲垣 長典

(童話) 小さいあげはの子

第六号

鈴木正子

ピキニの灰から 多田 鉄雄

家庭に望むこと・幼稚園に望むこと

佐竹千歳・佐藤久子・大熊米子

家庭との連絡 松村光子・秋山ちえ子

幼児グループの研究メモから

東 安子

(座談会) グループに入れない子供

平井信義・堀合文子・松村康平

水原泰介・及川ふみ・菊地ふじ

の・津守 真・富平美喜

小鳥の飼育と幼児生活 遠藤 悟朗

幼稚園の今昔(福井県) 松村 伊佐武

この子供たち(10) 松原 至大

第七号

浮びあがる問題

山下俊郎・児玉 省・平井信義

松村康平・村山貞雄・竹田俊雄

神谷映子・外学生

夏の山村地方の保育 岩崎 香

夏の海岸地方の保育 湯原 香代子

児童と公園 中山 茂

夏の戸外遊び 平井信義

教育白書にあらわれた幼稚園の現状(1)

飢えの欲望と精神衛生(1) 玉越 三朗

この子供たち(11) 加藤 常吉

松原 至大

第八号

しつけの基本法則 波多野 完治

新緑大和紀行 野口 明

日本の印象 ロバート・H・ブラワー

雲と正太のこと 坪田 譲治

キャンプ場にて 秋山 ちえ子

実践記録から 松村 康平

ばけもの世界 万寺 十郎

—— 保育学会の幼児発達調査から

—— いくつかの透視紙芝居について

木保 武

幼児の環境と生活指導 菊地 ふじの

幼児の体育的経験から 村田 修子

エリザベス・ビーボディと幼稚園 津守 真

第九号

日本保育学会第七回大会発表

幼児の言語表現についての一考察

角尾 和子

幼児の言語表現と絵画表現の関連について
内山 憲尙

子供の質問について 高橋 さやか

Finger Painting について

小西 勝一郎

並河 信子

Personality Projection in human

Figure について 釘宮 冴子

都内公立幼稚園と保育園における保育

上の差異について 平井 信義

千羽 喜代子

一年保育児と二年保育年長児との身体的

差異 宮内 孝

幼児の間食に関する一考察

砂田 恵一

幼稚園教育に対する評価及び期待の調査

村松 功雄

小学校との連関の上から見た保育内容の

三輪 和敏

再検討

最も合理的な幼児の進学準備教育

日名子 太郎

幼稚園児の生活実態についての一調査

芦田 昇

保育者の生活時間に関する実態調査(次

号掲載)

東京都内公立幼稚園教諭並びに保育所保

母の生活時間について 平井 信義

幼児の成熟度検査について 小野 恵子

角尾 稔

WISC知能診断テストの結果

小田島 明子

幼児の連想テストの結果について

小本 曾光

(学会共同研究)本邦幼児の発達規準の

研究

山下 俊郎

マシンプジウム△自由保育と一斉保育

福島恒子・根岸草笛・小川正道

守屋光雄・平井信義

第十号

狼の子ども

遠足についてこう思う

協力遊びの発展と指導

虫を喰う植物の話

保育用具の展示会を

教育職員免許法改正における幼稚園関係

の改正主要点の解説

育て教える

保育者の生活時間に関する実態調査

シビ・ガツチャキ

入学・テスト・幼稚園

齋藤 文雄

第十一号

齋藤 文雄

齋藤 文雄

竹田俊雄・瀬川良夫

武田一郎・小口忠彦

佐藤義美

いい童謡
私は園児にどんな影響を与えているでし

よう
水原泰介

言語指導の立場から見た劇あそびの意義

について
石黒修

劇あそび
村井トミ

劇あそびと日常保育と
小溝きつ

教育白書にあらわれた幼稚園の現状
玉越三朗

第十二号

判断について二つ
多田鉄雄

冬のあそびと保育

鷺山さき・まつむらいさむ

笠井久子・守田キョカ

米国の都市の子供の遊び

(米国大使館文化交流局)

こどもたちはどんなあそびをしているか

室谷幸吉

子供にとつて幼稚園はどんなところでし
よう
水原泰介

全国私立幼稚園教育研究大会を終えて

青柳義智代

幼児へのクリスマス伝説民話

上沢謙二

保育の本質から見て組分け保育か、合同

制保育か
鈴木豊蔵

幼児の教育第五十三巻総目録



ついで此の間昭和二十九年を迎えたばかりのような気がする中に、もう早や十二月号をお送りすることになつてしまつた。子供の頃は一年の経つのが実に長いものであるが、子供の教育をあずかる身となる頃には、一年は矢の如くに過ぎる。あれこれと毎日の保育に追われ、新しい園児を迎え、種々の行事に忙殺されて、もつともつと十分に教育のことを考えなければと思つている中に、早や今年も暮れようとしているのである。何と不十分な今年であつたことか、

編集後記

十二月号は各地から子供の遊びについて御執筆を頂いた。北海道、北陸、九州のそれぞれの幼稚園の現場の先生方から保育者の眼を通した子供の遊びのいろいろについて、興味深い記事をお寄せ頂いた。明星学園から寄せられた資料は、幼稚園対象児よりも更に高学年までを含むものであるが、一層広い視野から幼児の遊びを眺め得るようにと、此処に掲載した。

現場から生れる資料は生きた資料である。現場の毎日がそのまま記録されずに消えてしまつても、それで意義はあるのであるが部分的になりと何かの形で客観的に記録されておくと、いろいろ役に立つことも多い。今後、現場の先生方から、どのような形であろうと、資料が提供され、我が国の保育界に貢献して頂けることを希望しお願いする次第である。

上沢謙三氏からは、再びクリスマスに因んで童話について何うことが出来た。

幼児の教育 第五十三巻第十二号

定価金五十円

昭和二十九年十一月二十五日印刷

昭和二十九年十二月 一 日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉 橋 惣 三
発行者

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

○本誌御購読についての御注文は発売所
フレーベル館にお願いします。